

[第 1 号議案]

1-1 . 2013 年度事業報告書

- 1 . 概況：重点活動
 - 2 . 会員の異動状況
 - 3 . 会議等に関する事項（総会，理事会，各種委員会）
 - 4 . 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 - 5 . 実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）
 - 6 . 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 - 7 . 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 - 8 . 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 - 9 . 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）
 - 10 . 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）
 - 11 . その他：関連学協会との連絡および協力（定款 4 条 1 項 6 号）
 - 12 . 法人運営
- 付 1 . 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
 - 付 2 . 研究会および研究発表・学術講習会等一覧
 - 付 3 . 刊行物（会誌・論文誌・図書等）一覧
 - 付 4 . 国際会議一覧
 - 付 5 . 表彰等
- その他・附属明細書

2013 年度 事業報告書

1. 概況および重点活動

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から約3年が経過し、復興の進展と共に長きに渡った経済の停滞からの着実な回復が感じ取れるようになった。その象徴とも言える出来事として2020年のオリンピック・パラリンピック開催都市が東京に決定し、さまざまな分野の技術がこの大イベントに向けてレベルアップのターゲットを定めた感がある。情報処理技術もその一つであることは当然である。東京にて開催した第76回全国大会は1,378件の講演を得て盛会となり、情報処理技術の確かな歩みを示す好機となった。

喜連川新会長の新たなビジョンの元に、学会の最大の長期的課題である会員数減少に対して実施した、学生無料トライアル制度をはじめとする若手会員増の施策や、正会員減を食い止めるための地道な施策が奏功し、会員数は21年ぶりに増加に転じ、前年比299名増となった。財政的にも2013年度は黒字決算であった。

学会活動のよりいっそうの活性化を狙って役員制度の改革を行い「やんちゃ枠」を新設した。学会のコアである調査研究活動を着実に進める傍ら、実務家向けの活動として認定情報技術者の個人認証制度の試行を開始、2013年度中に24人の認定情報技術者が誕生した。

社会から「頼られ&相談される学会」となることを目指して、「新たな社会像と取り組むべきICTに関する課題に対する意見募集」への対応をはじめとして、国および政策に関する提言、声明の発表、パブコメへの対応などを積極的に行った。

1.1 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

2013年1月に発足させた「情報処理学会 若手研究者の会（以下、若手研究者の会）」の会合を3回開催し、若手研究者の会から新会員サービスの意見を取り纏め企画政策委員会へ提案した。

また、総務省と学会との意見交換会への出席、さらには新会員サービスの一つとして提案した研究会の動画中継サービスに関しては機材を購入しサービスを開始する等、より具体的な活動を推進した。

2012年度に導入した「学生無料トライアル会員制度」について拠点校の拡充、支部への協力依頼等、より強力に推進し当初目標としていた制度適用者500名に対して、目標を上回る526名の方に本制度を活用頂いた。

1.2 調査研究活動ならびに提言活動の推進

学会のコアの活動として、研究会による諸活動を推進した。コンピュータサイエンス領域、情報環境領域、メディア知能情報領域の3領域に分けて、領域会議を2回ずつ開催し、研究会間での情報交換を促した。

調査研究運営委員会、政策提言委員会、若手研究者の会が連携し、

(a) 長期的な研究のグランドデザインやロードマップに関する議論を行った。

(b) 国の政策および方針に関する「サイバーセキュリティ戦略」、「パーソナルデータの利用・流通」、「新たな社会像と取り組むべきICTに関する課題」などのパブリックコメント募集に対して、各専門の研究分野と連携して積極的な提言活動を行った。

日本学術会議の2014年度版のマスタープランへの対応として、「情報学分野の科学・夢ロードマップ2014」を策定し、2013年に日本学術会議に提出した。本ロードマップは関連学会の案と統合し、「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ2014」として、2014年8月に公開を予定している。

個々の研究会活動を超えて、領域または調査研究全体による活動を支援するために、調査研究活動の積立資金よりプロジェクトを募集し、国際会議支援、女性研究者支援などの7件のプロジェクト総額150万円を支援した。また、複数の研究会の共催による「先進的計算基盤システムシンポジウム」や「DICOMOシンポジウム」、「MIRUシンポジウム」などを開催した。

1.3 グローバル化

英文論文誌 Journal of Information Processing(以下、JIP)のインパクトファクタ取得について、2015年度の再申請に向けて諸対応を促進した。

研究会活動を中心に、国際会議の開催など、海外学協会との連携を推進した。多くの研究会による国際会議やワークショップが開催された。

IEEE や ACM のような国際学会が存在する中で、日本の情報処理学会のアイデンティティをどのように考えるのかという観点から、調査研究運営委員会および若手研究者の会などにおいて学会のグローバル化の議論を行った。IEEE との連携による予稿集の割引などのサービスについて検討した。

1.4 実務家・IT プロフェッショナル向け活動の強化

高度 IT 人材の資格制度である「認定情報技術者制度」について、制度案を公表するとともに、個人を対象とする認証審査の試行を実施し、24名の認定情報技術者が誕生した。

2つの新設 IT フォーラムを立ち上げるなど、ソフトウェアジャパン、デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、IT フォーラムなど、各種の実務家・IT プロフェッショナル向け活動を通じて、会員増、収入増に貢献した。

情報処理推進機構(IPA)、情報サービス産業協会(JISA)、日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)、電子情報技術産業協会(JEITA)、科学技術振興機構(JST)などの実務家・IT プロフェッショナルを対象とする団体との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進して、会員増に貢献した。

1.5 会員サービスおよび広報の充実

電子図書館の統合を行うとともに情報学広場の正式運用を開始した。

法人アカウントによるオンラインサービスへの移行と購読員・法人会員向け CD-ROM の廃止を実施した。

大学向けサイトライセンスサービスを2014年4月より開始することを決定した。

事業評価データの継続的な収集と分析・改善、会員満足度調査結果への対応を検討した。

1.6 学会運営体制の充実

積極的な会員獲得と退会抑制の取組を行った結果、今年度末の会員数は19,314人となり昨年度末の19,015人を299人上回った。1992年度以来、21年続いていた会員減少から会員増に転じることができた。

若手研究者の会を発足し他の委員会と合同会議を開催した。

新世代に対応できるよう理事会推薦役員候補者選出の細則を改訂し、2014年度から長期戦略担当理事、新世代担当理事を新設する。

学会の魅力向上・価値の向上を目指して策定した中長期計画の定期的な見直しを継続し、計画に基づいた諸施策を推進した。

第三者機関であるアドバイザリーボードの助言を得て、諸事業の企画および運営の改善に努めた。

2. 会員の異動状況

| 会員種別 | 会員数 | | 増減数 - | 備考：2013年度の異動 | | | | |
|--------------|--------------|--------------|-----------|--------------|----------|------------|---------|----------|
| | 2013 年度末 | 2012 年度末 | | 入会 | | 退会 | | 資格 喪失 |
| 名誉会員 | 33 | 35 | -2 | 1 | 正会員から異動 | 3 | | |
| 正会員 | 16,306 | 16,531 | -225 | 547 758 | 学生会員から異動 | 1,085 1 | 名誉会員に異動 | 444 |
| 学生会員 | 2,975 | 2,449 | 526 | 1,469 526 | 学生トライアル | 687 758 | 正会員に異動 | 24 |
| 個人会員 計 | 19,314 | 19,015 | 299 | 3,301 | | 2,534 | | 468 |
| 賛助会員 (口数) | 228 (519) | 228 (527) | 0 (-8) | 12 (14) | | 12 (22) | | |

1: 入会には復会, 再入会を含み, 退会には死亡退会を含む。

2: 2013年度期末正会員数には終身会員 404 名(前年度 357 名)を含み, 学生会員数にはトライアル制度適用の 508 名を含む。

3. 会議等に関する事項(総会, 理事会, 各種委員会)

総会, 理事会をはじめ, 法人運営, 調査研究活動, 人材育成活動, 事業活動, 機関誌 / 出版活動, 標準化活動, 国際活動に関する各種委員会を開催した。詳細は付録 1 (p.16 ~ p.30) に掲載する。

4. 実施事業 1: 調査研究活動(定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号)

4.1 研究発表会, シンポジウム・講習会等 [所掌: 調査研究運営委員会および各領域委員会]

38 研究会, 2 研究グループにより活動し, 研究発表会 (156 回) およびシンポジウム等 (22 回) を開催した。詳細は付録 2 (p.31 ~ p.37) に掲載する。

前年度参考: 39 研究会, 2 研究グループ, 研究発表会 158 回, シンポジウム 24 回

[1] コンピュータサイエンス領域

10 研究会により, 研究発表会 (43 回), シンポジウム等 (8 回) を行った。それぞれの研究会が積極的な活動を行っているが, 中でも特記事項は次の通りである。

学術会議に提出する「情報学分野の科学・夢ロードマップ 2014」を作成するため, CS 領域では各研究会から 2030 年代までを見通した重要な基礎研究テーマを集め, 情報処理分野「テクノロジーレベル」のロードマップを作成した。

4 研究会が 合同で, 176 名の参加者を集め「先進的計算基盤システムシンポジウム 2013 (SACSIS: Symposium on Advanced Computing Systems and Infrastructures)」を開催した (開催場所: 仙台国際センター, 日時: 5 月 22 日 ~ 24 日)。

計算機アーキテクチャ (ARC), システムソフトウェアとオペレーティングシステム (OS), ハイパフォー

マンスコンピューティング (HPC) , プログラミング (PRO) 各研究会

CS 領域奨励賞の一環として第一回情報処理学会計算機アーキテクチャ研究会ハイパフォーマンスプロセッサデザインコンテストを企画した (開催場所: 東工大, 開催日時: 2014年1月23日, 24日)。

優秀な若手会員を顕彰するため, 2013年度コンピュータサイエンス領域奨励賞を14名に授与した。

[2] 情報環境領域

16研究会により, 研究発表会 (64回) , シンポジウム等 (9回) を行った。特記事項は次の通りである。

領域全体の活動として, 領域共通の積立金を活用したプロジェクトを募集し, 9件の応募の中から学生プログラムコンテスト, 国際会議支援, 女性研究者支援などの7件のプロジェクト (総額150万円) を助成することとした。昨年度採用した4件のプロジェクトの一部は成果報告を行い, 領域の活性化に貢献したことを確認した。

10研究会 が合同で, ネットワークに関する研究分野を対象に, 研究者間の深いディスカッションと交流の場となるよう合宿形式による「DICOMO2013シンポジウム (2013年7月10日~12日, 北海道)」を開催した。参加者は438名であった。

マルチメディア通信と分散処理 (DPS) , グループウェアとネットワークサービス (GN) , モバイルコンピューティングとユビキタス通信 (MBL) , コンピュータセキュリティ (CSEC) , 高度交通システム (ITS) , ユビキタスコンピューティングシステム (UBI) , インターネットと運用技術 (IOT) , コンシューマ・デバイス & システム (CDS) , セキュリティ心理学とトラスト (SPT) , デジタルコンテンツクリエイション (DCC) 各研究会

4研究会 が合同で「インタラクション2014シンポジウム」を開催した。実システムのデモを通じて発表者と参加者との双方向的なコミュニケーションを重視したインタラクティブ発表などは毎年好評を博し, 今回も500名を超える参加者を得て盛会であった。

ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) , グループウェアとネットワークサービス (GN) , ユビキタスコンピューティングシステム研究会 (UBI) , エンタテインメントコンピューティング (EC) 各研究会

システム評価 (EVA) 研究会とインターネットと運用技術 (IOT) 研究会が統合して IOT 研究会として活動を開始した。昨年度発足した「デジタルコンテンツクリエイション研究会 (DCC)」がトランザクションを発行した。

[3] メディア知能情報領域

12研究会, 2研究グループにより, 研究発表会 (49回) , シンポジウム等 (5回) を行った。

電子情報通信学会と共催で「画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2013)」を開催 (今回は情報処理学会が主催) し, 若手プログラムを組むなど, 毎年500名を超える参加者を得た。

ゲーム開発者イベント「CEDEC2013 (Computer Entertainment Developers

Conference ; 8月21日~23日パシフィコ横浜)」に連携して, 複数研究会によるコラボレーション企画セッションを実施した。

発足20周年を迎えた音楽情報科学研究会が年間を通じてさまざまな企画シンポジウム・イベントを実施した。聴講無料サービスとビデオストリーミングにより, のべ14,800人超のアクセスを得た。

4.2 その他

(1)表彰

優れた研究発表および業績等に対して, 山下記念研究賞, 長尾真記念特別賞, 喜安記念業績賞, 若手奨励賞を贈呈した。詳細は付録 5 (p.45~p.47) に掲載する。

5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて，以下の施策を実施した。

5.1 情報教育カリキュラムの策定 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 次期カリキュラム標準 J17 への着手

次期カリキュラム標準 J17 ならびに主として人材像と評価軸に関するアセスメントの基幹方針の検討を開始した。情報処理コミュニティに対して広く興味を喚起し，多数の技術者をカリキュラム策定の議論に巻き込むため，ワーキンググループ新設並びにキックオフイベントの開催を決定した。

(2) 情報専門学科におけるカリキュラム標準（J07）のフォローアップ

前年度に引き続き，J07 の普及・改訂，教科書など教材の整備・提供・普及など実施した。J07 のフォローアップ活動の一環として，全国大会イベント（2014 年 3 月）「大学における一般情報教育の現状と展開」にて，全国規模の大学一般情報教育の実態調査の報告とともに，大学における一般情報教育の在り方や課題を議論した。

(3) 初等中等教育での情報教育支援

各大学における入試科目「情報」の採用を推進する「情報入試 WG」，「会員の力を社会につなげる」研究グループ(SSR)との連携を強め，高校の情報科教員の養成支援，教材開発や出張授業などを通じて教育現場支援を推進した。また，他学協会とも連携し，情報教育カリキュラムの観点から現場への支援・連携を進めた。

高校教科「情報」大学情報入試全国模擬試験を実施

第 1 回（2013 年 5 月），第 2 回（2014 年 2 月）の大学情報入試全国模擬試験を実施した。高校教科「情報」シンポジウム（2013 年 10 月）にて，第 1 回目の模擬試験内容および分析結果について報告した。分析結果を出題内容や実施運営にフィードバックし，第 2 回模試を実施した。

関係機関との相互連携の強化

大学入試のための情報科の試験内容について検討している情報入試 WG をはじめ 情報入試研究会，情報入試を実施している大学，高校で情報を教えている立場の教員による望ましい情報科の評価のあり方などについて全国大会イベントで「大学入試における「情報」入試のあり方と可能性」を議論し相互連携を強化した。また，一般社団法人電子情報技術産業協会（情報・産業社会システム部会情報政策委員会 IT 人材育成ワーキンググループ）と高校教科「情報」の現状と今後の可能性について意見交換を行い，今後も継続して相互連携することを確認した（2013 年 12 月）。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定） [所掌：情報処理教育委員会]

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため，日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定審査業務に対応した（新規1校，継続1校，中間審査1校）。

5.3 資格制度 [所掌：高度IT人材資格検討WG，個人認証試行委員会，企業認定制度設計WG]

高度 IT 資格制度案のプレスリリースを実施した（6 月）。

個人認証に関する規程の完成度を高めた。

- ・資格の名称を，「認定情報技術者（CITP:Certified IT Professional）」とした。
- ・設計した制度の問題点の改善と妥当性の確認のため，8～9 月および 2～3 月の 2 回にわたり一部企業の協力を得て試行を実施し，24 名の認定情報技術者が誕生した。

企業認定に関する制度設計を開始した。

ソフトウェアアジア 2014 の「高度 IT 人材育成フォーラム」で「高度 IT 資格制度と情報系プロフェッショナルコミュニティのあるべき姿」セッションを開催した（2 月）。

ISO/IEC JTC1/SC7/WG20 の会議（11 月、ピサ）に出席し、関連国際標準 ISO/IEC24773 の改訂に関する討議等に参加した。

5.4 その他 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 情報学参照基準の策定活動

日本学術会議において、大学教育の分野別質保証に資するため、各分野の教育過程編成上の参照基準を作成することになり、「情報学」分野に関しては、情報処理教育委員会が協力して策定した。

(2) 大学一般情報処理教育に関する全国規模の実態調査

大学一般教育に関する全国規模の実態調査を開始し、各大学へのアンケートを実施した（12 月）。2014 および 2015 年度においてアンケート結果を分析し、情報教育に関する一般情報教育モデルとしてまとめ公表することを決定した。

(3) 社会への提言：「達成度テスト」における情報科試験採用の要望

現在大学入試センター試験等に代わるものとして検討されつつある「達成度テスト」（基礎・発展）において、情報科の学習に関して適正な内容・水準が維持されていることの評価を含めるべきとする提言をまとめ公表した（2013 年 12 月）

(4) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

高校教科「情報」シンポジウム 2013（2013 年 10 月）を実施した。詳細は付録 2（p.37）に掲載する。

(5) 表彰

高校生および高専生等を対象とするコンテストの後援と若手奨励賞の授与を行った。また、優れた教育の実践等を顕彰するため優秀教育賞を贈呈した。詳細は付録 5（p.47）に掲載する。

6 . 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

各開催状況の詳細は付録 2（p.37～p.38）に掲載する。

6.1 全国大会 / FIT

(1) 第 76 回全国大会 [所掌：全国大会組織委員会]

第 76 回全国大会を 2014 年 3 月 11～13 日に東京電機大学 東京千住キャンパスで開催した。本大会では、通常の一般セッション、学生セッションに加えて大会招待講演企画、大会イベント企画、展示会などのイベントを開催した。また、本会のプレゼンス向上を図るべくできるだけ多くの方に参加してもらえよう、前回大会に引き続き有料の大会聴講参加に加えて「大会イベント企画限定聴講参加（参加費無料）」の参加枠を設けた。さらに、大会期間限定で論文閲覧等ができるスマートフォン用アプリを配布し好評を得た。講演件数は 1,378 件（一般セッション 274 件、学生セッション 1,104 件）、総参加者数は 3,030 名であった。

前年度参考：講演件数 1,406 件、総参加者数 2,759 名

(2) 第 12 回情報科学技術フォーラム（FIT2013） [所掌：FIT 運営委員会]

FIT2013（第 12 回情報科学技術フォーラム）を、2013 年 9 月 4～6 日に鳥取大学 鳥取キャンパスにおいて開催した。台風の影響を受けたが現地実行委員会の協力で無事開催する事ができた。講演件数は

660 件，総参加者数は 1,301 名であった。

前年度参考：講演件数 573 件，総参加者数 1,452 名

(3) 表彰 [所掌：全国大会組織委員会]

優れた発表を顕彰するため，全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈した。また，今年度より学生奨励賞の受賞枠を各セッション毎に 1 名から 2 名に拡大し，「情報処理学会推奨卒業論文・修士論文認定制度」を廃止した。詳細は付録 5 (p.46) に掲載する。

6.2 連続セミナー/ソフトウェアジャパン/プログラミング・シンポジウム

(1) 連続セミナー2013 [所掌：セミナー推進委員会]

「ビッグデータの深化と真価～最新技術から活用事例まで～」を全体テーマとし，年度内に全 6 回開催し，本会場（東京）延べ 650 名，遠隔会場（大阪）延べ 195 名の参加があった。

前年度参考：全 6 回，東京/大阪延べ参加者数 979 名

(2) 短期集中セミナー [所掌：セミナー推進委員会]

年度内に，次の短期集中セミナーを開催した。

「Exciting Coding！2013～IT スペシャリストが語るクラウドシステム/アプリ開発の面白さ～」（11 月）
参加者：95 名

(3) ソフトウェアジャパン 2014 [所掌：IT フォーラム推進委員会]

「アイドル総選挙からセキュリティまで～ビッグデータの今」をタワーホール船堀にて開催した。

昨年と同様に，テーマにもとづいた「メインセッション（午後開催）」を有料化，IT フォーラムならびに関連団体がそれぞれに企画をする「IT フォーラムセッション（午前開催）」は無料，という形で一日を午前と午後に切り分けて実施した。

総参加者数 504 名（メインセッション 214 名，IT フォーラムセッション 434 名，重複含む）

スポンサー：6 団体，サポーター：31 団体

前年度参考：参加者数 594 名，スポンサー：6 団体，サポーター：32 団体

(4) プログラミング・シンポジウム [所掌：事業運営委員会]

年度内に 3 回（第 55 回プログラミング・シンポジウム，夏のプログラミング・シンポジウム，第 46 回情報科学若手の会）のシンポジウムを開催した。若手を中心に広く参加者を募ることを目指し，夏のプログラミング・シンポジウムについては，昨年同様，参加費無料，日帰り開催とした。

6.3 IT フォーラム [所掌：IT フォーラム推進委員会]

「IT 未来人材フォーラム」と「ビッグデータ活用実務フォーラム」を新設した。

ソフトウェアジャパン 2014 の IT フォーラムセッションにおいて，関連団体との連携イベントを推進した。

情報処理推進機構（IPA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS），情報サービス産業協会（JISA），先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC），科学技術振興機構（JST）

実務家向け論文誌「デジタルプラクティス」ならびに高度 IT 人材資格検討 WG との連携を強化した。

「IT 未来人材フォーラム」では 8 月に「中学生・高校生コンピュータプログラミング一日体験ワークショップ」を開催し，「ビッグデータ活用実務フォーラム」では，オープンソースカンファレンス 2013 において「情報処理学会 ビッグデータ活用実務フォーラムの紹介と，今後の活動について」と題したセミナー等を行った。

個人情報利活用 WG のセッションも開催し，弁護士の先生方からも意見を頂戴した。

6.4 コンピュータ将棋『あから』強化推進 [所掌：「あから」強化推進委員会]

ゲーム開発者イベント「CEDEC 2013」において、コンピュータ将棋が人間のトップよりも強くなった後にどのような事態が起きるかについてのパネル討論を行った。パネリストとしてコンピュータ将棋『あから』強化推進委員会委員の関係者が参加した。

新あからの構成の候補となる強豪ソフトについて改良の状況をインターネット対戦によって確認した。日本将棋連盟の関係者と、トッププロ棋士とコンピュータの対戦の進め方について面談して意見交換を行い、2015年ごろにトッププロ棋士とコンピュータとの対戦を実現すべく動いていくことになった。

2014年3月の全国大会においてコンピュータ将棋が人間のトップに勝った後にコンピュータが将棋にどのように貢献できるかについて特別セッションを開催した。

6.5 AIプログラミングコンテスト [所掌：プログラミングコンテスト委員会]

学生および若手技術者の育成を目的として、世界規模の対戦型プログラミングコンテスト「Samurai Coding2013」を開催（国内予選（日本を主たる活動場所とするチームが対象）と国際予選（国内予選参加以外のチームすべてが対象）を行い、日本で決勝戦）した。

決勝戦は、予選を勝ち抜いた国際:2チーム、国内:10チームの全12チーム22名で、2013年12月8日（日）に東京大学本郷キャンパスで開催し、1位から3位を国内チームが独占する結果となった。参加者は決勝進出チームメンバーを含め40名であった。

6.6 各支部による支部連合大会、講習会等の開催 [所掌：各支部]

支部連合大会、講習会、講演会、セミナー、国際ワークショップ等、各支部において活発に活動がなされた。また、各支部で開催している連合大会について、その大会名称に「情報」を加える方向で各支部長よりそれぞれの連合大会委員会へ働きかけを行った。詳細は、付録2（p.39）および付録5（p.47～p.48）に掲載する。

7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）

発刊状況の詳細は付録3（p.40）に掲載する。

7.1 会誌「情報処理」 [所掌：会誌編集委員会]

(1) コンテンツ

会誌「情報処理」第54巻5号から第55巻4号まで計12号（本文1,322ページ、広告64ページ、平均発行部数18,775部/号）を編集発行した。

「読まれる学会誌」を目指して、会員サービス、および会員増という観点から編集を行い、時宜を得た特集、連載、単発記事が提供できるよう努めた。

4月号に特集「研究会活動紹介」を掲載し、新年度の定番企画として定着させることとした。

学会Webとの連動企画として、昨年に引き続き10月号「研究会推薦博士論文速報」では、本誌に簡略版、Webにその詳細を掲載した。

連載「鉄道の運行システムにおける情報処理技術の動向」を11月号から3月号まで掲載し好評を得た。また、新たにコラム「ビブリオ・トーク・私のオススメ」の連載を開始した。その他、著名人による「巻頭コラム」、シニアコラム「IT好き放題」、連載「古機巡礼/二進伝心」、教育コーナー「ペタ語義」を引き続き掲載し、概ね好評を得た。

(2) その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

冊子版に掲載された広告を Web カタログとして学会 Web 上に掲載するサービスを継続した。

学生向けの「就職情報」については順調な掲載がなされた。

メールニュースをより魅力的なものとするため、新たに「理事からのメッセージ」の掲載を開始した。

2013 年の会誌の表紙に掲載されているキャラクターを「ゆるキャラ」として広報活動に利用した。

8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

各発刊状況の詳細は付録 3（p.40～p.42）に掲載する。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [所掌：ジャーナル編集委員会]

論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）

論文誌（一般論文、特集号論文）の月刊体制を維持し、295 編（含 JIP preprint 67 編）が掲載された。招待論文を 1 編および特集号を 13 号発行した。分野横断型の新しい特集号としてジャーナル/JIP 編集委員会幹事会が提案母体となる「地域貢献・復興特集号」を企画し、従来の特集号ではカバーされない分野での論文投稿を促進した。また研究会、支部および理事会に推薦論文の推薦依頼を行って、59 編の推薦論文を採録した。

論文の質、査読の質の向上（採択数の増加に向けた取り組み）

優れた研究成果に基づく多くの研究者が参照すべき論文を選出して、特選論文として表彰する制度を開始した。投稿・査読・編集のプロセスの検討を行い、ダブルブラインド制からシングルブラインド制への移行を行った。

論文査読管理システム（PRMS：Paper Review Management System）の運用

ハードウェア移行作業および認証強化、ユーザビリティ向上等の改修を迅速に行った。また、次期査読システムの方向性を検討し、その一環として商用システムの試行を行った。商用システムでの運用にあたり、いくつかの課題が明らかになり、引き続き検討行うこととした。

電子化を有効活用した改善

論文投稿関連の統計情報に基づき、キーワードリストや編集委員の担当分野に関する見直しを行った。

(2) 「Journal of Information Processing（JIP）」（季刊） [所掌：JIP 編集委員会]

JIP の海外投稿促進と国際化

年間論文採録数の目標 85 編に対して採録件数は 67 編になり、季刊での安定的な発行を軌道にのせるとともに、次年度からの隔月刊化に向けての検討を進めた。インパクトファクタ取得に関しては、昨年度に申請までこぎつけたものの取得には至らなかった経験を活かし、2015 年の申請に向けた準備を開始した。著名な研究者の招待論文を 1 編掲載した。非会員からの投稿を含めた JIP の掲載料の無料化を 2015 年 7 月投稿分まで延長し、それを有効活用して英語論文の投稿を増加させた。

論文査読管理システム（PRMS：Paper Review Management System）の英語での運用

PRMS システムの運用経験をもとにして、要望の多かった機能の追加および改修を行った。また、次期査読システムの方向性を検討し、その一環として商用システムの試行を行った。次期査読システムのオープンソースでの設計・開発を含む JIP の国際発信力強化を主題とした科学研究費補助金申請を行った。

情報関係学会英文論文合同アーカイブズ (IMT : Information and Media Technologies) の刊行
IMT の編集運営会議幹事学会として、編集および定期的刊行を実施した。JIP のインパクトファクタ
取得に向けて JIP に掲載される論文を IMT の対象から外すことにした。

(3) トランザクション (9 誌) [所掌 : 各トランザクション編集委員会]

研究会が編集した「情報処理学会論文誌 (トランザクション)」9 誌を年度内に計 31 号発行した。新
トランザクションとして「教育とコンピュータ (略称:TCE)」をスタートさせた。和英混載のトランザクショ
ンに採録された英語論文は JIP に掲載することを検討し、一部のトランザクションについて 2015 年発刊
分から実施することにした。CVA を始めとする英文トランザクションのインパクトファクタ取得やトラン
ザクションでの論文査読管理システム等の検討を行った。

(4) 実務活動の論文誌「情報処理学会デジタルプラクティス」[所掌 : デジタルプラクティス編集委員会]

論文誌「デジタルプラクティス」通巻 14 号~17 号の特集号企画と編集、投稿論文の審査・共同推敲
を行った (招待論文 23 編, 特集号投稿論文 10 編, 一般投稿論文 6 編を掲載)。

デジタルプラクティス (以下, 本項では DP) 著者に、より強い動機をもってクオリティの高い論文を
執筆していただくために、DP アワードを選定し、ソフトウェアジャパン 2014 にて授賞式を行った。

学会が推進する事業の一つとして DP のあり方を継続的に議論した。議論の結果、紙冊子を 4 月から
廃止し、完全電子化を行うことを決定した。またそのために読者・著者モニタリング手法の強化を検討
した。掲載料の有料化については継続して検討を行う。

次のような関連活動との連携を試みた。JISA の SPES2013 での CFP 配布, グローバルクラウド基盤
連携技術フォーラム(GICTF), グリッド協議会, ソフトウェアジャパン 2014 での DP 冊子配布等。

3 月全国大会で今までの DP 企画とは一味違う DP 企画セッションを開催した。

(5) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞, DP アワード等を贈呈した。詳細は付録 5 (p.44, p.48) に
掲載する。

8.2 専門誌：教科書シリーズ [所掌 : 出版委員会]

“IT Text”シリーズの見直しを進め、委員の入替を実施した。

8.3 歴史資料の保存・公開 [所掌 : 歴史特別委員会, コンピュータ博物館小委員会]

「情報処理技術遺産」8 件, 「分散コンピュータ博物館」1 件の関連調査と認定を行った (情報処理技
術遺産累計 : 71 件, 分散コンピュータ博物館累計 : 8 件)。詳細は付録 5 (p.48) に掲載する。

「コンピュータ博物館」の充実を図った。

(4 月~3 月のアクセス数 657,704 件 (日英あわせて), 転載数 17 件)

オーラルヒストリー 5 件を会誌に掲載した。

全国大会で特別セッション「私の詩と真実」を開催した。

古い機器の譲渡申込みへの対応など遺産の保存につながる活動を行った。

8.4 電子図書館事業の推進 [所掌 : デジタルコンテンツ事業検討委員会]

電子図書館の統合を行うとともに情報学広場の正式運用を開始した。同時に法人アカウントによるオ
ンラインサービスへの移行と購読員・法人会員向け CD-ROM の廃止を実施した。

大学向けサイトライセンスサービスを 2014 年 4 月より開始することを決定した。各大学へ周知を行
うとともに、申込み受付を開始した。

9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）

9.1 情報規格調査活動 [所掌：情報規格調査会]

(1) 国際標準化中心メンバーとしての貢献

昨年度から引き続き、メディア符号化（SC29）、デジタル記録媒体（SC23）、文字コード（SC2）などの重点領域の委員会議長、幹事国などの国際役職引き受けを継続するとともに、国の代表として、JTC1総会（11月フランス）に出席し、審議プロセス・組織の見直し、新規標準化領域などの議論に参加した。

今年度の引き受け件数は、議長3件（20SC委員会中）、セクレタリアート4件（20SC委員会中）で昨年と変化なし。その他、コンビーナ（各SC委員会傘下のWG主査）16件（106WG中、昨年比1件増）、プロジェクトエディタ130名（昨年比7名増）と昨年同様に貢献した。

重要な標準化領域に対しては新たな会員の参加を促しつつ積極的に貢献している。クラウド関係のSC38ではボキャブラリおよび参照アーキテクチャに関するドキュメントの開発に貢献するとともに、SLAに関する新たなプロジェクトに対しても貢献を進めた。また、Internet of Things（IOT）に関する特別作業グループでは、ドキュメントを開発する三つのアドホックが設立され、日本としても対応を進めた。

日本提案による国際標準化の推進としては、新業務項目（NP）の提案（含承認済）5件、国際標準（IS）などの発行されたもの4件などである。

国際会議の日本での開催：次の7件の国際会議を開催し、国際標準化活動に大きく貢献した。
JTC 1/WG 8 ,SC 2/WG 2/IRG ,SC 22 総会&WG23 ,SC 23/JWG 1 ,SC 25/WG 3 ,SC 34/EPUB BRM ,
SC 38 総会&WG_s。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

新たに策定した準賛助員制度について、1社の参画を得た。また、昨年策定した、専門委員会毎に予算枠を設ける施策については、大きな混乱もなく予算執行を進めることができた。引き続き安定的な運営に努める。

国際標準化活動への参加・貢献の割合をできる限り維持することに努めた。335回の標準化国際会議への参加者は、延べ1,059人とほぼ昨年並みを維持した。

今年度も引き続き、本部と情報規格調査会との連絡会を設置し、年3回会議を実施した。情報セキュリティの保持、運営方法の改善、活動の活性化、予算策定など、情報共有を図りつつ運営を推進した。

(3) 広報活動とセミナーの実施

刊行物「情報技術標準 NEWSLETTER」：季刊誌（年4回）および別冊（年1回）を発行した。

情報技術標準化フォーラム（2013年5月20日）：経済産業省情報電子標準化推進室鈴木晴光室長による「産業競争力強化に向けた国際標準化政策」と、東京大学越塚登教授による「Internet of Things, M2M, Ubiquitous Networkの動向」の2件の講演を実施した。

(4) 表彰

標準化関連活動への貢献を顕彰するため、標準化貢献賞等を贈呈した。詳細は付録5（p.49）に掲載する。

10 . 実施事業 7 : 国際活動 (定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号)

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加 [所掌 : IFIP 委員会]

IFIP 日本代表ならびに TC-Chair の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加

IFIP 総会 (9月28日~29日 , アムステルダム (オランダ)) に齊藤 IFIP 日本代表が参加した。

各 TC 日本代表の TC-meeting への参加

IFIP 活動の周知

会誌 (3月号) への活動報告 , 会議レポートの掲載のほか , メールニュース , Web を利用した情報発信を行った。

International Professional Practice Partnership (IFIP IP3) への参画

(2) IEEE-Computer Society との連携・協力

2013年7月22日~26日に京都にて開催された The 37th Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2013) への技術協力を行った。

第76回全国大会において IEEE-CS 会長 Dejan S. Milojicic 氏を招聘し招待講演を行った。

演題 「 IEEE Computer Society 2022 Report 」

(3) 海外学協会との連携・協力

The Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力

第76回全国大会において KIISE 会長 Chong-kwon Kim 氏を招聘し招待講演を行った。

演題 「 SW enabled IT industry development strategy in Korea 」

他の海外学会との協力関係の継続

・ The Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)

・ Association for Computing Machinery (ACM)

・ Computer Society of India (CSI)

The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

(4) 国際会議の開催 (6 件)

開催状況の詳細は付録4 (p.43) に掲載する。

11 . その他 : 関連学協会等との連絡および協力 (定款 4 条 1 項 6 号)

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会への参加

「日本工学会公開シンポジウム (5月) 」における震災復興支援関係の講演 , 会長懇談会への参加など , 日本工学会に参加し , 関連学協会の共通の問題について意見交換を行った。日本工学会主催の世界工学会議 (WECC2015 ; 2015 年開催) の開催へ協力の他 , 工学系 6 学会会長連携会議に参画した。

(2) 電気・情報関連学会連絡協議会への参加

電気・情報関連学会連絡協議会に参加し , 会員数の変動状況など共通の問題について意見交換を行った。

(3) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）」ほか、研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行った。

(4) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議協力学術研究団体として、2014 年度版マスタープラン策定のための学術大型研究計画に関する調査、ロードマップの作成など、日本学術会議の活動に協力した。

11.2 会議の協賛後援等

(1) 国内会議の協賛・後援等

「産学連携 IT 人材育成シンポジウム 2013」（情報処理推進機構主催、2013 年 12 月 25 日）ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等 113 件を行った。

(2) 国際会議の協賛・後援等

「第 45 回ストカスティックシステムシンポジウム(SSS'13)」（システム制御情報学会主催、2013 年 11 月 1 日～2 日）ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等 17 件を行った。

12 . 法人運営

12.1 入会促進・広報活動

(1) 会員減の防止と新規会員の取り込み

会員減対策として以下の施策を実施した。正会員の減少は依然継続しているものの、個人会員合計は 2007 年度の 833 名減から毎年度着実に縮小し 2013 年度末 299 名の増加に転じた。

各活動において学会の価値向上策に取組むとともに、理事を中心に、新規会員の勧誘および退会防止に努めた。

ソフトウェアジャパンの開催、デジタルプラクティスの刊行など実務家に向けた活動を推進した。

また、関連イベントの非会員参加者が入会する際には入会金を免除するよう対応した。

会費滞納による資格喪失の防止策として、会費の口座引落等の推進を継続するとともに、クレジットカード決済も 4 月から新規導入した。

(2) 学生会員の獲得と育成

学部学生、高校生、高専生向けの学生無料トライアル会員制度を強力に推進し、対象校の拡充を図り 526 名に本制度を利用頂いた。

研究会ならびに支部の協力により新規学生会員の獲得活動を実施し、学生会員の正会員への移行・定着の施策として 1 研究会への無料登録を継続した。

(3) 学会活動の広報強化

学会 Web の充実化、Facebook、Twitter、Ustream などのソーシャルメディアの活用による情報発信を推進した。

各種行事等の場における入会促進、電子メールによる学会紹介、IPSJ メールニュースの充実（理事からのメッセージ記事）等の広報活動の充実にも努めた。また、情報関連展示会（CEATEC）や関連団体等イベントの場において本会の活動を紹介した。

12.2 政策提言活動の強化 [所掌：政策提言委員会]

情報処理に対する一般社会の価値認識を高めるとともに、学会の存在感の向上を図り、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して政策提言体制の強化を図った。情報系の各種パブコメに対しても(4)のとおり8件の意見を提出した。

(1) 長期的な研究のロードマップ作成による学会の方向性の形成

研究会の協力を得て、長期的な研究のロードマップを作成し学会に提出した。

(2) 国の政策および方針に関する積極的提言

国の政策および方針に積極的に関与するべく関連省庁との意見交換を継続した。

(3) 若手研究者の会の運営

若手研究者の連携強化・活動の活性化、および日本学術会議の同様の活動の受皿となること等を目的として、若手研究者の会の活動を継続し、若手からの意見収集と運営への反映に努めた。

(4) 情報系の各種パブコメへの積極的対応

2013年度中に次の意見を公開した。

- ・「改正労働契約法の無期労働契約への転換ルール」に対する声明（2013年4月）
- ・「サイバーセキュリティ戦略（案）」への意見（2013年6月）
- ・「パーソナルデータの利用・流通に関する研究会 報告書（案）」への意見（2013年6月）
- ・「世界最先端IT国家創造」宣言（案）に対する意見（2013年6月）
- ・「イノベーション創出委員会」への意見（2013年6月）
- ・「達成度テスト」における情報科試験採用の要望（2013年12月）
- ・「新たな社会像と取り組むべきICTに関する課題に対する意見募集」に対する意見（2013年12月）
- ・「新・情報セキュリティ人材育成プログラム（案）に対する意見募集」に対する意見（2014年2月）

12.3 運営体制の充実・改善等

(1) 組織・選挙制度等の見直し・改善

2014年度以降の運営体制の充実を図るべく、新たに「長期戦略」と「新世代」の担当理事を設置するよう定款、選挙制度の見直しをすすめた。

(2) 中長期計画の具体化と推進

学会の魅力・価値の向上を目指して中長期計画を策定することにより各事業のスケジュールの明確化を図り、諸施策の着実な実施を推進した。

(3) 諸活動の評価のためのデータ収集の継続

会員の入退会、大会・セミナー等への投稿・申込み状況、会誌等のモニター会員による評価など、関連データの収集・分析を継続し諸活動の評価・改善に努めた。

(4) アドバイザリーボードへの対応

第3期メンバーによるアドバイザリーボードミーティングを2013年7月に開催した。ボードメンバーからの助言は、実施事業の企画および運営の改善に役立てた。

(5) 2012年度監事付帯意見への対応

2012年度監事付帯意見（2013年6月開催の第582回理事会に監事が提出）について、改善策の検討ならびに学会運営および中長期計画への反映などの対応を実施し、結果を590回理事会（2014年4月）で報告した。監事付帯意見は、会員減に対する取り組み、学会価値向上のための「新たな展開」の試み、東

日本大震災の復興支援，規格標準化についての取り組みの4項目から成り，全てに対し検討・対応を実施した。

(6) 著作権関連 [所掌：著作権委員会]

著作権侵害の扱いについて審議した。

(7) 電子化の推進 [所掌：学会システムWG]

会員サービス向上と会員制度の見直しに向けて学会情報システムの仕組みを検討し，現状調査，課題分析を行い，要求定義を作成した。

(8) インシデント他への対応

セキュリティポリシーの見直しとガイドラインの検討，プライバシーポリシーの見直しを行った。

12.4 その他表彰等

(1) 顕彰，名誉会員・フェローの選定など

功績賞，学会活動貢献賞の贈呈のほか，フェロー認定，情報処理技術遺産・分散コンピュータ博物館の認定等を行った。詳細は付録5(p.44)に掲載する。

(2) 事務局職員

事務局常勤職員の年度末在籍者は29名(本部20名，規格9名，前年末は30名)である。

以上

| | | |
|--|--|---|
| <p>議決可能理事数：全議案とも23名</p> | <p>3. 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業] 4. 情報規格調査会委員の変更 [標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2013年5月期開催会議 [総務] 2. 第15～18回学会システムWG議事録 [総務] 3. 学会システムMonthly統計資料 (2013年5月分) [総務] 4. 第175回会誌編集委員会議事録 [会誌] 5. 第394回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会 (幹事会) 議事録抜粋 [論文誌] 6. 第65回調査研究運営委員会議事録 [調査研究] 7. 第18回高度IT人材資格検討WG議事録 [技術応用] 8. 第8回企業認定制度WG議事録 [技術応用] 9. 第6～8回高度IT人材資格個人認証施行準備WG議事録 [技術応用] 10. 2013年度第1回情報処理教育委員会議事録 [教育] 11. 第299回規格役員会報告 [標準化]</p> | <p>承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認</p> |
| <p>第585回理事会 2013年7月18日 議長：喜連川優 (会長) 議決可能理事数：全議案とも23名 出席理事数：19名</p> | <p><承認事項> 1. ASP-DAC2013国際会議終了報告書 [調査研究] 2. 一般情報教育委員会による全国規模の調査実施計画 [教育] 3. 情報規格調査会委員の変更 [標準化] 4. SC29 2014 標準化国際会議招致申請 [標準化] <審議事項> 1. 企画政策委員会関係 [副会長] (1) 役員構成の見直し案 (概要) (2) 会員向け新サービス検討 <報告事項> 1. 2013年度企画政策委員会 (第2回) 議事録 [副会長] 2. アドバイザリーボード説明資料 [企画] 3. 次期学会システム要求定義検討中間報告 [総務] 4. 第114回総務財務運営委員会議事録 [総務] 5. 第9回政策提言委員会議事録 [企画] 6. 会誌：モニタ評価・特集一覧等 [会誌] 7. 会誌広告状況 (2013年7月現在) [会誌] 8. PRMSにおける情報漏洩インシデント報告 [論文誌] 9. デジタルプラクティス：ダウンロード数・特集一覧 [技術応用] 10. 情報規格調査会インシデント経過報告 [標準化]</p> | <p>承認 承認 承認 承認 承認 検討依頼 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認</p> |
| <p>決議の省略・報告の省略 2013年7月25日 (監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも23名</p> | <p><法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2013年7月の新規入会申請 [総務] 2. 個人情報の利活用促進に関する検討WGの設置 [総務] 3. シンポジウム等の開催願い [調査研究] 4. 2013年度山下記念研究賞受賞候補者 [調査研究] 5. 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業] 6. 国際会議の協賛・後援等依頼 [事業] 7. 表彰規程・ソフトウエアジャパンアワード選定手続きの改訂 [技術応用] 8. 情報科学技術推進委員会規程の改訂 [事業] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2013年6月期開催会議 [総務] 2. 第113回総務財務運営委員会議事録 [総務] 3. 2013年度フェロー選定手順 [総務] 4. 第19回学会システムWG議事録 [総務] 5. 学会システムMonthly統計資料 [総務] 6. 2013年6月月次損益管理表 [財務] 7. 第176回会誌編集委員会議事録 [会誌] 8. 第86回歴史特別委員会議事録 [会誌] 9. 第396回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会 (幹事会) 議事録抜粋 [論文誌] 10. 各領域委員会報告 [調査研究] 11. 第41回デジタルプラクティス編集委員会議事録 [技術応用] 12. 第7回ITフォーラム推進委員会・第1回SWジャパン2014PC合同議事録 [技術応用] 13. 第2回SWジャパン2014PC委員会議事録 [技術応用] 14. 第12回プログラミングコンテスト委員会議事録 [事業] 15. 第19回高度IT人材資格検討WG議事録 [技術応用] 16. 第9回企業認定制度WG議事録 [技術応用] 17. 第76回全国大会プログラム委員会 (第2回) 議事録 [事業]</p> | <p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認</p> |

| | | |
|---|--|--|
| <p>議決可能理事数：全議案とも23名</p> | <ol style="list-style-type: none"> 2. 2014年度役員選挙理事会推薦最終候補者【総務】 3. プライバシーポリシーの改訂【総務】 4. シンポジウム等の開催願い・終了報告【調査】 5. 国内会議の協賛・後援等依頼【事業】 6. 国際会議の協賛・後援等依頼【事業】 7. 情報規格調査会委員の変更【標準化】 8. 情報処理学会「ご寄付の御願い」文書【総務】 <p><法令および定款により理事会報告があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2013年11月期開催会議【総務】 2. 2013年11月月次損益管理表【財務】 3. 第119回総務財務運営委員会議事録【総務】 4. 第29回学会システムWG議事録【総務】 5. 学会システムMonthly統計資料（2013年11月分）【総務】 6. 会誌広告状況（2013年12月現在）【会誌】 7. 第400回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録抜粋【論文誌】 8. 第16回トランザクション編集会議議事録【論文誌】 9. 2013年度第1回論文賞選定委員会（ジャーナル）議事録【論文誌】 10. 第15回企業認定制度WG議事録【技術応用】 11. 第23回高度IT人材資格検討WG議事録【技術応用】 12. 2013年デジタルプラクティスアワード【技術応用】 13. 第16回、17回プログラミングコンテスト委員会議事録【事業】 14. 第5回FIT運営委員会（通算50回）議事録【事業】 15. 第5回情報科学技術推進委員会議事録【事業】 16. 2013年度第6回情報処理教育委員会議事録【教育】 17. スキル標準の在り方に関する研究会【教育】 18. 第304回規格役員会議事録【標準化】 | <p>承認 再提出 承認 承認 承認 承認 再提出</p> <p>確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認</p> |
| <p>第588回理事会 2014年1月21日</p> <p>議長：喜連川優（会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも23名 出席理事数：18名</p> | <p><承認事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本学術会議「情報学」参照基準案【教育】 2. プライバシーポリシーの改訂【総務】 ※再提出 3. 情報処理学会「ご寄付の御願い」【総務】 ※再提出 4. シニア会員：制度詳細・アプライ方法等【総務】 ※再提出 5. 入会承認手続きのディレイ【総務】 6. 名誉会員の推薦【総務】 7. 次期会誌編集長【会誌】 8. 教育事業コンサルタント業務に関する契約【教育】 9. 情報規格調査会規程実施細則の変更【規格】 <p><審議事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企画政策委員会関係【副会長】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 定款（理事数）・一般規則（理事の分掌）改訂 (2) 2014年度学会体制・その他委員構成の見直し (3) 新世代企画委員会（仮称）の設置 2. 事業計画・予算ほか【各理事】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 2014年度事業計画（1次）／2013年度報告（1月現在） (2) 2014年度予算（1次）／2013年度決算見込（1月現在） (3) 中長期計画および会員増の施策：進捗状況 <p><報告事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会員向け新サービスの検討状況【総務】 2. 法令・定款による理事の職務執行状況報告（9月～11月）【総務】 3. 日本学術会議会員・連携会員の情報提供【副会長】 4. 情報学分野の科学・夢ロードマップ【副会長】 5. 第181回会誌編集委員会議事録＋モニタ評価ほか【会誌】 6. 会誌広告状況（2014年1月現在）【会誌】 7. ジャーナル・JIP・トランザクション発行状況【論文誌】 8. デジタルプラクティス特集予定ほか【技術】 | <p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p> <p>承認 承認 承認</p> <p>継続検討 継続検討 確認</p> <p>確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認</p> |
| <p>決議の省略・報告の省略 2014年1月25日（監事確認日）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも23名</p> | <p><法令および定款により理事会決議があったものとする事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2014年1月の新規入会申請【総務】 2. 2014年度支部予算配分額【総務】 3. 2014年度代表会員最終候補者【総務】 4. 2013年度学会活動貢献賞の選定【総務】 5. シンポジウム等の開催願い・終了報告【調査研究】 6. 国内会議の協賛・後援等依頼【事業】 | <p>承認 承認 承認 承認 承認 承認</p> |

■各種委員会

※委員は6月以降の構成を掲載（以下、同）

◎委員長・主査、○副委員長・財務委員、幹事・副査、△担当理事（担務）、*オブザーバ、アドバイザー委員

1. 法人運営

1.1 企画政策委員会

◎/△西尾章治郎、○/△中田登志之、赤津雅晴、大沢英一、折原良平、妹尾義樹、高橋克巳、鳥居 悟、新田 淳、松井 充

[6月11日、7月9日、8月27日、10月9日、11月13日、'14年1月14日、2月24日、3月12日]

アドバイザーボード対応/選挙制度および運営体制の見直し/会員サービスに関する検討/学生無料トライアル対応ほか

1.1.1 学会システムWG

◎/△鳥居 悟、赤池洋俊、大森久美子、中田登志之、中津佳彦、平林浩一、平山敏弘、森 良哉

[4月16日、5月7日、5月14日、5月28日、6月4日、6月11日、6月25日、7月29日、8月6日、8月20日、8月29日、9月2日、9月25日、10月15日、10月31日、11月5日、11月25日、12月24日、'14年1月20日、2月17日、3月4日、3月17日]

学会管理システムに関する検討対応

1.2 政策提言委員会

◎/△西尾章治郎、○/△松井 充、○/△新田 淳、折原良平、鳥居 悟、大沢英一、池内克史、菊池浩明、黒橋禎夫、関口智嗣、中野美由紀、東野輝夫

[7月9日、8月27日、11月1日]

パブコム対応/日本学会会議マスタープラン・夢ロードマップ対応/省庁ヒアリング/若手研究者の会 ほか

1.2.1 若手研究者の会（幹事会）

◎黒橋禎夫、野田夏子、森嶋厚行、近藤正章、重野 寛、越前 功、大内一成、関嶋政和、高岡詠子、後藤 真、*大沢英一、*池内克史、*菊池浩明

[8月27日（幹事会）、11月1日（幹事会）] 学会活動活性化に向けた若手からの意見 ほか

1.3 総務財務運営委員会

◎/△中田登志之、△折原良平、△鳥居 悟、△妹尾義樹、△高橋克巳

[4月19日、5月29日、6月11日、7月16日、8月27日、9月25日、10月9日、11月13日、12月11日、'14年1月14日、2月24日、3月12日]

総会関連事項/損益状況/その他運営上の諸課題の検討対応

1.3.1 本部・規格連絡会

◎/△中田登志之、○/△伊藤 智、△高橋克巳、妹尾義樹、鳥居 悟、折原良平、櫻井義人、成井良久、平山浩司、福田昭一、本庄利守、松本隆明

[4月19日、7月16日、12月11日、2月18日] 本部・規格調査会間の連絡

1.4 電子化委員会（学会システムWGの設置により休眠）

1.4.1 セキュリティ委員会

◎村山優子、大谷和子、岡本栄司、△折原良平、菊池浩明、佐々木良一、妹尾義樹、寺田真敏、鳥居 悟、丸山 宏

[電子メールベース] 情報セキュリティに関する諸対応

1.5 若手サービス企画委員会（2014年度に「新世代対応企画委員会（仮称）」に改組予定）

1.6 支部長会議

◎/△喜連川優、△西尾章治郎、△中田登志之、△折原良平、△鳥居 悟、△妹尾義樹、△高橋克巳
各支部長：山本雅人（北海道）、小林広明（東北）、岩瀬勇二郎（東海）、金子峰雄（北陸）、藤原 融（関西）、菅原一孔（中国）、最所圭三（四国）、吉田隆一（九州）

[9月11日、12月17日（役員検討会）] 本部-支部の意見交換

1.7 アドバイザーボード

◎根本武彦、島田俊夫、田口 潤、辻村清行、立石譲二、永岡慶三、本山和夫

[7月22日] 第三者的な見地からの情報処理学会の運営に関する助言

2. 調査研究活動

2.1 調査研究運営委員会

◎/△西尾章治郎、○/△池内克史、○/△大沢英一、○/△菊池浩明、片寄晴弘、木俣 豊、清木 康、小林 稔、中村 宏、茂木 強

| 開催年月日 | 主な議事事項 | 会議結果 |
|------------|---|--|
| 2013年6月11日 | 1. 委員構成確認 2. 調査研究積立資産の増減の扱いについて 3. 監事付帯意見への対応 4. 研究会共通費の賦課・シンポジウム事務諸費など | 確認 確認⇒ 各領域・研究会で確認 各領域・研究会に収集依頼 承認 |
| 2013年10月9日 | 1. 研究会の継続・名称変更 2. 2014年度研究会登録費算定方法 3. 調査研究に関する規程の改定 4. 監事付帯意見への対応 5. 理事候補者の推薦 | 確認・承認⇒ 理事会報告 承認⇒ 理事会報告 承認⇒ 理事会提案 各領域意見収集⇒ 理事会報告 確認⇒ 推薦 |
| 2014年2月24日 | 1. 調査研究に関する規程の改定 2. 動画中継について 3. 夢ロードマップについて 4. 中長期計画／会員増の進捗 | 承認⇒ 理事会提案 確認 確認 確認 |

2.2 コンピュータサイエンス領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎清木 康、○中村 宏、△大沢英一、宇野毅明、鶴林尚靖、枝廣正人、河野健二、佐藤寿倫、須田礼仁、増原英彦、棟朝雅晴、村岡道明、山名早人

| | | |
|------------|---|---|
| 2013年7月2日 | 領域共通-1. 2013年度山下記念研究賞 領域共通-2. 調査研究積立資産の増減の扱いについて 領域共通-3. 監事付帯意見への対応：新たな展開など 領域共通-4. 研究会共通費の賦課・シンポジウム事務諸費など | 選定⇒ 理事会提案 確認 意見交換⇒ 各研究会からの意見収集 承認 |
| 2013年9月24日 | 領域共通-1. 研究会の継続・名称変更 領域共通-2. 2014年度研究会登録費算定方法 領域共通-3. 調査研究に関する規程の改定 領域共通-4. 監事付帯意見への対応：新たな展開など 領域共通-5. 研究会への依頼事項：研究会毎の賞の公開など | 承認⇒ 調査研究運営委員会へ提案／報告 確認 確認 意見交換⇒ 調査研究運営委員会へ報告 確認 |
| 2014年2月18日 | 領域共通-1. 2013年度活動状況／2014年度計画 領域共通-2. 財務委員の改選 領域共通-3. 動画中継について 領域共通-4. 夢ロードマップについて 領域共通-5. 中長期計画／会員増の進捗 | 確認 確認・承認 確認 確認 確認 |

2.3 情報環境領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△菊池浩明、○小林 稔、石川憲洋、市村 哲、岩田 彰、柿本正憲、勝本道哲、亀山 渉、河野恭之、角 康之、刀川 真、塚本昌彦、中挾知延子、西垣正勝、野本忠司、屋代智之、山井成良、渡邊 晃

[6月18日、10月3日、'14年2月4日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

2.4 メディア知能情報領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△池内克史、○片寄晴弘、伊藤彰則、伊藤毅志、角田博保、倉本 到、栗原 聡、阪田真己子、関嶋政和、竹村治雄、徳永健伸、平賀瑠美、八木康史、山下博之

[6月18日、10月1日、'14年2月12日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

3. 人材育成活動

3.1 高度IT人材資格検討WG ※傘下のWGは掲載略

◎旭 寛治、△赤津雅晴、位野木万里、△浦本直彦、落谷 亮、折原良平、寛 捷彦、掛下哲郎、芝田 晃、鳥居 悟、西 直樹、平田圭二、松井 充、丸山 宏、茂木 強、吉野松樹

[4月9日、5月17日、6月10日、7月10日、8月21日、10月7日、11月6日、12月16日、'14年1月20日、2月24日、3月25日]

高度IT人材資格制度の検討

3.2 情報処理教育委員会（教育賞選定委員会を兼ねる） ※傘下の委員会は掲載略

◎寛 捷彦、○角田博保、○佐渡一広、△位野木万里、△松原 仁、阿草清滋、牛島和夫、大岩 元、掛下哲郎、金寺 登、神沼靖子、川合 慧、河村一樹、久野 靖、黒川恒雄、児玉公信、駒谷昇一、佐々木良一、清水尚彦、武井恵雄、辰巳丈夫、富樫 敦、都倉信樹、富田悦次、中森眞理雄、中山泰一、西田知博、萩谷昌己、疋田輝雄、福田 晃、本位田真一、松永賢次、望月徹英、山本昌弘、弓場敏嗣、吉澤康文、吉村 晋、和田 勉

[4月2日、5月24日、7月4日、9月2日、10月28日、12月3日、'14年2月3日、3月13日]

JABEE対応/J17準備/情報学分野の参照基準/次期学習指導要領改訂/免許更新講習/傘下の小委員会報告ほか

4. 事業活動

4.1 事業運営委員会

◎/△西尾章治郎、○/△砂原秀樹、大沢英一、△安本慶一

[電子メールベース] 全国大会、FIT、その他イベントの運営推進

4.2 第76回（2014年春）全国大会組織委員会 ※プログラム委員会、現地実行委員会は掲載略

◎/△西尾章治郎、○/△砂原秀樹、△安本慶一、大沢英一、安田 浩

[7月12日、ほか電子メールベース] 全国大会の運営・開催推進

4.3 FIT運営委員会 ※情報科学技術推進委員会・幹事会・実行委員会・プログラム委員会は掲載略

◎/△西尾章治郎、○安浦寛人、荒川賢一、池内克史、石渡要介、今井順一、数井君彦、菊池浩明、黒岩眞吾、坂井修一、境田慎一、佐藤真一、△砂原秀樹、中田登志之、村瀬洋、△安本慶一、*大田友一

[7月9日、11月13日、ほか電子メールベース] FITの運営・開催推進

4.4 プログラミング・シンポジウム幹事会 ※運営委員会は掲載略

◎岩崎英哉、長 慎也、中山心太、松崎公紀、三好健文、山田浩史、横山大作

[[6月11日、8月23日、10月10日、12月17日、'14年2月21日] 夏のプロシン/若手の会/冬のプロシンの開催推進

4.5 コンピュータ将棋『あから』強化推進委員会

◎松原 仁、△砂原秀樹、△安本慶一、飯田弘之、伊藤毅志、柿木義一、金子知適、岸本章宏、小谷善行、柴山悦哉、関口智嗣、瀧澤武信、田中哲朗、棚瀬 寧、近山 隆、鶴岡慶雅、中島 浩、橋本 剛、保木邦仁、山下 宏、横山大作、吉野松樹、*湖東俊彦

[電子メールベース] コンピュータ将棋とプロ棋士の対戦推進

4.7 プログラミングコンテスト委員会

◎近山 隆、○鷺崎弘宜、*竹内郁雄、坂本一憲、高田眞吾、田中秀樹、千葉 滋、新田 淳、松原 仁、△安本慶一、吉野松樹

[4月1日、5月7日、6月13日、7月11日、8月9日、10月11日、11月12日、12月9日、'14年2月12日]

プログラミングコンテストの開催推進

4.8 技術応用運営委員会

◎村上篤道、○中田登志之、△赤津雅晴、△浦本直彦、妹尾義樹、高橋克巳、新田 淳、寺中勝美、平田圭二、旭 寛治

[5月9日、10月21日ほか電子メールベース] 技術応用活動全体の調整・推進

4.9 ITプロフェッショナル委員会（高度IT資格関連WGの活動により休眠）

4.10 セミナー推進委員会

◎/△赤津雅晴、○/△浦本直彦、杉田由美子、中野美由紀、平手勇宇

[7月12日、10月18日、12月18日、'14年2月7日] 連続セミナー・短期セミナーの開催推進

4.11 ITフォーラム推進委員会 ※ソフトウェアジャパン関連委員会は掲載略

◎寺中勝美、△赤津雅晴、△浦本直彦、位野木万里、掛下哲郎、諏訪良武、秋川友宏、宮崎義文、後藤厚宏、中田登志之

[6月25日 ほか電子メールベース] ITフォーラム・ソフトウェアジャパンの運営推進

5. 会誌

5.1 会誌編集委員会

◎中島秀之、△加藤由花、△木下哲男、伊藤毅志、奥乃 博、小野寺民也、柏野邦夫、河口信夫、佐藤文明、高岡詠子、谷 幹也、田村 大、松崎公紀、宮崎邦彦、村上知子、村松茂樹、森信一郎、山口実靖、横山昌平、吉岡信和

[4月11日、5月2日、6月13日、7月10日、9月4日、10月2日、11月4日、12月4日、'14年1月9日、2月7日、3月7日]

全回共通：会誌の編集発行

6. 機関誌／出版活動

6.1 学会論文誌運営委員会

◎/△西尾章治郎、池内克史、乾健太郎、大沢英一、岡部寿男、菊池浩明

[電子メールベース] 論文誌全体に関する諸課題の対応

6.2 JIP編集委員会（幹事会）

◎横田治夫、○/△岡部寿男、○/△乾健太郎、ほか「6.3 ジャーナル編集委員会（幹事会）」メンバ
* Adam KOZYNIAK、* Mamadou Tadiou KONÉ、* Michael ENG、* Monica CARLY、* Raymond WAN、* Robert DELANEY、* Sylvain KAMDEM
[海外編集委員] Calton PU（アメリカ）、Hee-Kap AHN（韓国）、Jeffrey Xu YU（香港）、Kunsoo PARK（韓国）、
Rémi COULOM（フランス）、Seiji ISOTANI（ブラジル）、Takashi MIYAKI（ドイツ）、Winston SEAH（ニュージーランド）、
Won-Gyu LEE（韓国）、Xiaofang ZHOU（オーストラリア）

[4月5日、5月18日、6月14日、7月3日、9月13日、10月9日、11月1日、12月4日、'14年1月8日、2月14日、3月7日]

全回共通：JIPの編集発行

6.3 論文誌ジャーナル編集委員会（幹事会）

◎/△岡部寿男、○/△乾健太郎、戸川 望、井口 寧、堀山貴史、清原良三、鈴木幸太郎、今泉貴史、福田直樹、藤井秀樹、中津川実、由井蘭隆也、吉高淳夫、中山泰一

[4月5日、5月18日、6月14日、7月3日、9月13日、10月9日、11月1日、12月4日、'14年1月8日、2月14日、3月7日]

全回共通：論文誌ジャーナルの編集発行

6.3 トランザクション編集会議

◎/△岡部寿男、岡田謙一、城 和貴、須田礼仁、関 洋平、関嶋政和、高橋 修、富山宏之、中野美由紀、増原英彦、八木康史、山名早人

[4月18日ほか、電子メールベース] トランザクションの編集発行に関する諸課題の対応

6.4 デジタルプラクティス編集委員会

◎平田圭二、青山幹雄、△赤津雅晴、伊藤 智、上原哲太郎、△浦本直彦、海老原吉晶、黒橋禎夫、住田一男、谷口倫一郎、中野美由紀、中村祐一、平木 敬、平山雅之、福島俊一、富士 仁、藤瀬哲朗、峯松信明、茂木 強、吉野松樹、*喜連川優

[4月26日、5月24日、6月28日、7月26日、9月26日、10月24日、11月25日、12月25日、'14年1月23日、2月20日、3月26日]

全回共通：デジタルプラクティスの編集発行

6.5 デジタルコンテンツ事業検討委員会

◎/△西尾章治郎、△折原良平、安達 淳、今村 誠、浦本直彦、大沢英一、岡部寿男、加藤由花、砂原秀樹、高橋克巳、塚本昌彦、平田圭二

[9月27日、ほか電子メールベース] デジタルコンテンツ事業の推進

6.6 出版委員会

6.6.1 教科書編集委員会

◎阪田史郎、△木下哲男、△加藤由花、井戸上彰、大河内正明、菊池浩明、駒谷昇一、坂下善彦、辰己丈夫、田名部元成、平山雅之、山本里枝子

[8月21日、10月9日、12月25日、'14年3月31日] 教科書シリーズの刊行に関する検討

6.7 歴史特別委員会（傘下の小委員会は掲載略）

◎発田 弘、○旭 寛治、△木下哲男、△加藤由花、宇田 理、浦城恒雄、橋爪宏達、弘末清悟、前島正裕、松永敏雄、山田昭彦

[4月8日、7月8日、9月18日、10月25日、'14年1月28日]

コンピュータに関する歴史の公開推進、情報処理技術遺産等の認定ほか

6.8 著作権委員会

◎/△木下哲男、○/△加藤由花、赤津雅晴、池内克史、乾健太郎、大沢英一、岡部寿男、折原良平、菊池浩明、天野真家、大谷和子、杉本重雄、長谷川亨、平田圭二

[電子メールベース] 知的財産権専門委員推薦、その他著作権に関する対応

7. 標準化活動

7.1 情報規格調査会（規格役員会）

◎/△伊藤 智、落合真一、櫻井義人、△高橋克巳、成井良久、平山浩司、福田昭一、本庄利守、*岩永敏明

[4月8日、5月13日、6月10日、7月8日、9月9日、10月21日、11月26日、12月9日、'14年1月20日、2月19日、3月10日]

規格賛助員の入退会等／委員変更／国際会議派遣・招致／月次決算／JTC1総会対応／標準化関連受託対応ほか

8. 国際活動

8.1 IFIP委員会

☆齊藤忠夫（IFIP日本代表）、◎/△西尾章治郎、○/△大沢英一、○/△池内克史、○/△菊池浩明、小林直樹、胡 振江（1月に萩谷昌己委員から交替）、齋藤俊則（11月に大岩元委員から交替）、中野 冠、亀田壽夫、内木哲也、小向太郎、金川信康、村山優子、栗原 聡（11月に山口高平委員から交替）、北村喜文、星野准一

[11月13日] IFIP年次総会報告／各TCの活動報告ほか。

9. 上記以外の委員会および委員は次サイトを参照

<http://www.ipsj.or.jp/annai/committee/meibo/2013/2013meibo.html>

付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧

[研究会等の詳細]

| 研究会等の名称（（ ）内：英略称、*：研究グループ） | 主査名（運営委員数） | 登録者数 |
|-------------------------------|------------|------|
| [コンピュータサイエンス領域] | | |
| データベースシステム (DBS) | 山名早人 (50) | 475 |
| ソフトウェア工学 (SE) | 鷓林尚靖 (51) | 548 |
| 計算機アーキテクチャ (ARC) | 佐藤寿倫 (32) | 413 |
| システムソフトウェアとオペレーティング・システム (OS) | 河野健二 (33) | 329 |
| システムLSI設計技術 (SLDM) | 村岡道明 (33) | 265 |
| ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC) | 須田礼仁 (37) | 568 |
| プログラミング (PRO) | 増原英彦 (25) | 348 |
| アルゴリズム (AL) | 宇野毅明 (22) | 219 |
| 数理モデル化と問題解決 (MPS) | 棟朝雅晴 (28) | 325 |
| 組込みシステム (EMB) | 枝廣正人 (32) | 270 |
| [情報環境領域] | | |
| マルチメディア通信と分散処理 (DPS) | 勝本道哲 (44) | 376 |
| ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) | 河野恭之 (38) | 525 |
| グラフィクスとCAD (CG) | 柿本正憲 (32) | 283 |
| 情報システムと社会環境 (IS) | 刀川 真 (21) | 189 |
| 情報基礎とアクセス技術 (IFAT) | 野本忠司 (23) | 187 |
| オーディオビジュアル複合情報処理 (AVM) | 亀山 渉 (13) | 79 |
| グループウェアとネットワークサービス (GN) | 市村 哲 (33) | 259 |
| デジタルドキュメント (DD) | 中挾知延子 (12) | 109 |
| モバイルコンピューティングとユビキタス通信 (MBL) | 渡邊 晃 (39) | 348 |
| コンピュータセキュリティ (OSEC) | 西垣正勝 (44) | 481 |
| 高度交通システム (ITS) | 屋代智之 (16) | 165 |
| ユビキタスコンピューティング (UBI) | 角 康之 (26) | 263 |
| インターネットと運用技術 (IOT) | 山井成良 (40) | 413 |
| セキュリティ心理学とトラスト (SPT) | 岩田 彰 (24) | 90 |
| コンシューマ・デバイス&システム (CDS) | 石川憲洋 (31) | 147 |
| デジタルコンテンツクリエーション (DCG) | 塚本昌彦 (25) | 98 |
| [メディア知能情報領域] | | |
| 自然言語処理 (NL) | 徳永健伸 (19) | 472 |
| 知能システム (ICS) | 栗原 聡 (10) | 224 |
| コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM) | 八木康史 (56) | 576 |
| コンピュータと教育 (GE) | 角田博保 (43) | 508 |
| 人文科学とコンピュータ (GH) | 阪田真己子 (24) | 222 |
| 音楽情報科学 (MUS) | 平賀瑠美 (34) | 373 |
| 音声言語情報処理 (SLP) | 伊藤彰則 (24) | 237 |
| 電子化知的財産・社会基盤 (EIP) | 山下博之 (16) | 123 |
| ゲーム情報学 (GI) | 伊藤毅志 (22) | 244 |
| エンタテインメントコンピューティング (EG) | 倉本 到 (25) | 199 |
| バイオ情報学 (BIO) | 関嶋政和 (15) | 133 |
| 教育学習支援情報システム (CLE) | 竹村治雄 (18) | 164 |
| *ネットワーク生態学 (NE) | 林 幸雄 (--) | --- |
| *会員の力を社会につなげる (SSR) | 寛 捷彦 (--) | --- |

1. 研究発表会（調査研究活動分）

1.1 コンピュータサイエンス領域

1.1.1 データベースシステム研究発表会

| 回次 | 開催年月 | 場所 | 発表件数 | 参加者数 | 共催団体、その他備考 |
|-------|----------------|-------|------|------|------------|
| 第157回 | 2013年7月22日～23日 | 北海道大学 | 34 | 42 | 電子情報通信学会 |
| 第158回 | 2013年11月26日 | 京都大学 | 32 | 75 | |

1.1.2 ソフトウェア工学研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|-------------|----|----|----------|
| 第180回 | 2013年5月27日～28日 | 東京大学 | 10 | 33 | |
| 第181回 | 2013年7月17日～18日 | Big・U | 17 | 21 | |
| 第182回 | 2013年10月24日～25日 | ITビジネスプラザ武蔵 | 32 | 60 | 電子情報通信学会 |
| 第183回 | 2014年3月19日～20日 | 化学会館 | 26 | 64 | |

1.1.3 計算機アーキテクチャ研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|----------|----|-----|----------|
| 第197回 | 2013年4月25日～26日 | 那覇市IT創造館 | 16 | 24 | |
| 第198回 | 2013年7月31日～8月1日 | 北九州国際会議場 | 26 | 100 | |
| 第199回 | 2013年12月16日～17日 | 北海道大学 | 36 | 52 | |
| 第200回 | 2014年1月23日～24日 | 東京工業大学 | 25 | 84 | |
| 第201回 | 2014年3月6日～7日 | 名古屋大学 | 10 | 79 | 電子情報通信学会 |

1.1.4 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|----------|----|----|--|
| 第125回 | 2013年4月25日～26日 | 那覇市IT創造館 | 16 | 31 | |
| 第126回 | 2013年7月31日～8月1日 | 北九州国際会議場 | 22 | 74 | |
| 第127回 | 2013年12月3日 | 芝浦工業大学 | 14 | 34 | |
| 第128回 | 2014年3月6日～7日 | 富山市民プラザ | 12 | 23 | |

1.1.5 システムLSI設計技術研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|-------------|----|-----|----------|
| 第161回 | 2013年5月16日 | 北九州国際会議場 | 13 | 44 | 電子情報通信学会 |
| 第162回 | 2013年10月7日～8日 | 弘前大学コラボ弘前 | 15 | 73 | 電子情報通信学会 |
| 第163回 | 2013年11月27日～29日 | 鹿児島県民文化センター | 52 | 151 | 電子情報通信学会 |
| 第164回 | 2014年1月28日～29日 | 慶應義塾大学 | 34 | 114 | 電子情報通信学会 |
| 第165回 | 2014年3月15日～16日 | ICTホール | 53 | 101 | 電子情報通信学会 |

1.1.6 ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会

| | | | | | |
|-------|------------------|--------------|----|-----|--|
| 第139回 | 2013年5月29日～30日 | 東京大学柏の葉キャンパス | 21 | 83 | |
| 第140回 | 2013年7月31日～8月2日 | 北九州国際会議場 | 45 | 171 | |
| 第141回 | 2013年9月30日～10月1日 | 沖縄県産業支援センター | 22 | 46 | |
| 第142回 | 2013年12月16日～17日 | 北海道大学 | 36 | 102 | |
| 第143回 | 2014年3月3日～4日 | 和倉温泉あへの風 | 35 | 87 | |

1.1.7 プログラミング研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|-----------------|----|----|--|
| 第94回 | 2013年6月3日～4日 | アルヴェ秋田市民交流プラザ | 6 | 32 | |
| 第95回 | 2013年8月2日 | 北九州国際会議場 | 9 | 37 | |
| 第96回 | 2013年11月11日～12日 | 日本IBM東京基礎研究所 | 10 | 26 | |
| 第97回 | 2014年1月14日～15日 | 松山市総合コミュニティセンター | 7 | 23 | |
| 第98回 | 2014年3月17日～18日 | 東京大学 | 7 | 32 | |

1.1.8 アルゴリズム研究発表会

| | | | | | |
|-------|----------------|---------------|----|----|----------|
| 第144回 | 2013年5月17日～18日 | 小樽商科大学 | 25 | 29 | 電子情報通信学会 |
| 第145回 | 2013年11月6日～7日 | 花巻南温泉郷渡り温泉さつき | 12 | 19 | 電子情報通信学会 |
| 第146回 | 2014年1月30日～31日 | 函館市民会館 | 5 | 45 | 人工知能学会 |
| 第147回 | 2014年3月3日～4日 | 中央大学後楽園キャンパス | 18 | 37 | |

1.1.9 数値モデル化と問題解決研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|------------|----|----|--|
| 第93回 | 2013年5月23日 | 北海道大学 | 11 | 24 | |
| 第94回 | 2013年7月22日 | モンテカルロリゾート | 13 | 16 | |
| 第95回 | 2013年9月26日～27日 | 熊本県立大学 | 21 | 43 | |
| 第96回 | 2013年12月11日～12日 | 東京工業大学 | 26 | 40 | |
| 第97回 | 2014年3月3日～4日 | タウンプラザしまね | 25 | 41 | |

1.1.10 組込みシステム研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|--------|----|-----|----------|
| 第29回 | 2013年5月27日～28日 | 東京大学 | 10 | 28 | |
| 第30回 | 2013年9月17日 | 名古屋大学 | 6 | 20 | |
| 第31回 | 2013年12月3日 | 芝浦工業大学 | 14 | 28 | |
| 第32回 | 2014年3月15日～16日 | ICTホール | 53 | 106 | 電子情報通信学会 |

1.2 情報環境領域

1.2.1 マルチメディア通信と分散処理研究発表会

| | | | | | |
|-------|----------------|---------------|----|----|----------|
| 第155回 | 2013年5月23日～24日 | 石垣市民会館 | 35 | 24 | 電子情報通信学会 |
| 第156回 | 2013年9月11日～13日 | 金沢工業大学 | 36 | 38 | 電子情報通信学会 |
| 第157回 | 2013年10月17日 | 館山寺サゴロイロヤルホテル | 12 | 20 | |
| 第158回 | 2014年3月6日～7日 | 明治大学 中野キャンパス | 47 | 64 | |

1.2.2 ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会

| | | | | | |
|-------|----------------|--------------|----|-----|--|
| 第153回 | 2013年5月24日 | 国士舘大学 | 7 | 38 | |
| 第154回 | 2013年8月5日～6日 | 湯本富士屋ホテル | 10 | 26 | |
| 第155回 | 2013年11月5日～6日 | 青山学院大学 | 17 | 25 | |
| 第156回 | 2014年1月15日～16日 | 下呂温泉 | 18 | 30 | |
| 第157回 | 2014年3月13日～15日 | 明治大学 中野キャンパス | 80 | 138 | |

1.2.3 グラフィクスとCAD研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|--------------|----|----|--|
| 第151回 | 2013年6月24日 | リクス・ジョンホール青森 | 6 | 34 | |
| 第152回 | 2013年9月9日 | とよはし芸術劇場プラット | 9 | 27 | |
| 第153回 | 2013年11月28日～29日 | 九州大学 | 26 | 48 | |
| 第154回 | 2014年2月20日～21日 | 理化学研究所 | 20 | 63 | |

1.2.4 情報システムと社会環境研究発表会

| | | | | | |
|-------|----------------|----------------|----|----|--|
| 第124回 | 2013年6月7日 | 東海大学 高輪キャンパス | 7 | 27 | |
| 第125回 | 2013年9月12日～13日 | 前橋工科大学 | 12 | 22 | |
| 第126回 | 2013年12月2日 | 室蘭工業大学 東京サテライト | 9 | 21 | |
| 第127回 | 2014年3月17日 | 法政大学 市ヶ谷キャンパス | 10 | 17 | |

1.2.5 情報基礎とアクセス技術研究発表会

| | | | | | |
|-------|----------------|-------------|----|----|----------------|
| 第111回 | 2013年7月22日～23日 | 北海道大学 | 34 | 29 | 電子情報通信学会 |
| 第112回 | 2013年9月26日 | 筑波大学東京キャンパス | 7 | 16 | デジタル図書館ワークショップ |
| 第113回 | 2014年2月7日 | キャンパスプラザ京都 | 3 | 7 | |
| 第114回 | 2014年3月29日 | 産業総合研究所 | 12 | 22 | |

1.2.6 オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|----------|----|----|------------------------|
| 第81回 | 2013年7月19日 | 日本女子大学 | 7 | 18 | 映像情報メディア学会 電子情報通信学会 |
| 第82回 | 2013年9月12日～13日 | 早稲田大学 | 15 | 6 | 電子情報通信学会 |
| 第83回 | 2013年12月5日～6日 | 京都工芸繊維大学 | 38 | 9 | 映像情報メディア学会 電子情報通信学会 |
| 第84回 | 2014年2月21日 | ているる | 9 | 11 | |

1.2.7 グループウェアとネットワークサービス研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|--------------|----|-----|----------|
| 第88回 | 2013年5月16日～17日 | 電気通信大学 | 21 | 24 | 電子情報通信学会 |
| 第89回 | 2013年9月11日～13日 | 金沢工業大学 | 36 | 35 | 電子情報通信学会 |
| 第90回 | 2014年1月23日～24日 | 和歌山大学 | 26 | 50 | |
| 第91回 | 2014年3月13日～15日 | 明治大学 中野キャンパス | 80 | 116 | |

1.2.8 デジタルドキュメント研究発表会

| | | | | | |
|------|-------------|---------|----|----|--|
| 第90回 | 2013年7月25日 | 岩手県立大学 | 7 | 12 | |
| 第91回 | 2013年9月27日 | 印刷博物館 | 3 | 17 | |
| 第92回 | 2013年11月29日 | セコム本社 | 7 | 17 | |
| 第93回 | 2014年3月29日 | 産業総合研究所 | 12 | 21 | |

1.2.9 モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|----------------|----|----|----------|
| 第66回 | 2013年5月23日～24日 | 石垣市民会館 | 35 | 27 | 電子情報通信学会 |
| 第67回 | 2013年9月12日～13日 | 東芝研究開発センター | 14 | 30 | |
| 第68回 | 2013年11月14日～15日 | 広島市立大学 | 21 | 25 | |
| 第69回 | 2013年12月19日 | 国立女性教育会館 | 15 | 30 | |
| 第70回 | 2014年3月14日～15日 | 慶應義塾大学 日吉キャンパス | 53 | 47 | 電子情報通信学会 |

1.2.10 コンピュータセキュリティ研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|---------------|----|----|----------|
| 第61回 | 2013年5月9日～10日 | 弘前大学 | 33 | 34 | 電子情報通信学会 |
| 第62回 | 2013年7月18日～19日 | 札幌コンベンションセンター | 65 | 53 | 電子情報通信学会 |
| 第63回 | 2013年12月9日 | 東京工科大学 | 7 | 32 | |
| 第64回 | 2014年3月6日～7日 | 明治大学 中野キャンパス | 47 | 69 | |

1.2.11 高度交通システム研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|------------|----|----|----------|
| 第53回 | 2013年6月14日 | 慶應義塾大学 | 7 | 21 | 電子情報通信学会 |
| 第54回 | 2013年9月2日 | 電気学会本部 | 9 | 13 | |
| 第55回 | 2013年11月14日～15日 | 広島市立大学 | 21 | 12 | |
| 第56回 | 2014年3月6日～7日 | 沖縄工業高等専門学校 | 17 | 34 | |

1.2.12 ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|----------------|----|----|----------|
| 第38回 | 2013年5月16日～17日 | 熊本大学 | 63 | 31 | 電子情報通信学会 |
| 第39回 | 2013年7月31日 | 青山学院大学 | 11 | 42 | |
| 第40回 | 2013年11月5日～6日 | 青山学院大学 | 17 | 36 | |
| 第41回 | 2014年3月14日～15日 | 慶應義塾大学 日吉キャンパス | 53 | 65 | 電子情報通信学会 |

1.2.13 インターネットと運用技術研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|----------|----|----|----------|
| 第21回 | 2013年5月9日～10日 | 弘前大学 | 33 | 37 | 電子情報通信学会 |
| 第22回 | 2013年8月1日 | 武蔵大学 | 16 | 61 | |
| 第23回 | 2013年9月27日 | 電気通信大学 | 10 | 19 | |
| 第24回 | 2014年2月27日～28日 | 山代温泉 瑠璃光 | 33 | 43 | 電子情報通信学会 |

1.2.14 セキュリティ心理学とトラスト研究発表会

| | | | | | |
|-----|----------------|---------------|----|----|----------|
| 第5回 | 2013年5月16日～17日 | 電気通信大学 | 21 | 20 | 電子情報通信学会 |
| 第6回 | 2013年7月18日～19日 | 札幌コンベンションセンター | 65 | 8 | 電子情報通信学会 |
| 第7回 | 2013年11月11日 | セコム本社 | 15 | 30 | |
| 第8回 | 2014年3月27日～28日 | 名桜大学 | 40 | 11 | 電子情報通信学会 |

1.2.15 コンシューマ・デバイス&システム研究発表会

| | | | | | |
|-----|----------------|--------------|----|----|--|
| 第7回 | 2013年5月23日～24日 | 同志社大学 東京オフィス | 8 | 26 | |
| 第8回 | 2013年9月12日～13日 | 東芝研究開発センター | 14 | 25 | |
| 第9回 | 2014年1月23～24日 | 和歌山大学 | 26 | 50 | |

1.2.16 デジタルコンテンツクリエーション研究発表会

| | | | | | |
|-----|-----------------|---------|----|----|--|
| 第4回 | 2013年6月27日 | 神奈川工科大学 | 14 | 28 | |
| 第5回 | 2013年11月14日～15日 | 広島市立大学 | 21 | 15 | |
| 第6回 | 2014年1月23日～24日 | 和歌山大学 | 26 | 50 | |

1.3 メディア知能情報領域

1.3.1 自然言語処理研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|---------------|----|----|--|
| 第211回 | 2013年5月23日～24日 | 北陸先端科学技術大学院大学 | 15 | 42 | |
| 第212回 | 2013年7月18日～19日 | はこだて未来大学 | 12 | 25 | |
| 第213回 | 2013年9月12日～13日 | 山梨大学 | 12 | 26 | |
| 第214回 | 2013年11月14日～15日 | 屋久島環境文化村センター | 21 | 30 | |
| 第215回 | 2014年2月6日 | 国立情報学研究所 | 10 | 47 | |

1.3.2 知能システム研究発表会

| | | | | | |
|-------|--------------|----------|----|----|---------------------------|
| 第172回 | 2013年11月12日 | 東京農工大学 | 9 | 14 | |
| 第173回 | 2014年1月23日 | 国立情報学研究所 | 8 | 23 | |
| 第174回 | 2014年3月2日～5日 | ホテル甘露の森 | 6 | 8 | 連続開催： 人工知能学会, 電子情報通信学会 |
| 第175回 | 2014年3月14日 | 名古屋工業大学 | 17 | 27 | |

1.3.3 コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|--------|----|-----|----------|
| 第187回 | 2013年5月30日～31日 | 東京農工大学 | 52 | 108 | |
| 第188回 | 2013年9月2日～3日 | 鳥取大学 | 35 | 38 | 電子情報通信学会 |
| 第189回 | 2013年11月28日～29日 | 九州大学 | 26 | 57 | |
| 第190回 | 2014年1月23日～24日 | 大阪大学 | 51 | 68 | 電子情報通信学会 |
| 第191回 | 2014年3月3日～4日 | 東京大学 | 34 | 107 | |

1.3.4 コンピュータと教育研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|------------|----|----|----------|
| 第120回 | 2013年7月6日 | 青山学院大学 | 12 | 62 | |
| 第121回 | 2013年10月12日～13日 | 中京大学附属中京高校 | 16 | 52 | |
| 第122回 | 2013年12月14日～15日 | 琉球大学 | 31 | 55 | 電子情報通信学会 |
| 第123回 | 2014年2月8日～9日 | 大阪電気通信大学 | 14 | 54 | |
| 第124回 | 2014年3月14日～15日 | 東京学芸大学 | 23 | 82 | |

1.3.5 人文科学とコンピュータ研究発表会

| | | | | | |
|-------|-------------|--------------|----|----|--|
| 第98回 | 2013年5月11日 | 大谷大学 | 7 | 38 | |
| 第99回 | 2013年8月3日 | 筑波大学 東京キャンパス | 7 | 26 | |
| 第100回 | 2013年10月12日 | 国立民族学博物館 | 10 | 34 | |
| 第101回 | 2014年1月25日 | 同志社大学 | 10 | 34 | |

1.3.6 音楽情報科学研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|--------------|----|-----|--|
| 第99回 | 2013年5月11日～12日 | お茶の水女子大学 | 66 | 347 | |
| 第100回 | 2013年8月31日～9月2日 | 東京大学 | 43 | 379 | |
| 第101回 | 2013年12月23日～24日 | 九州大学 | 19 | 29 | |
| 第102回 | 2014年2月23日～24日 | 筑波大学 東京キャンパス | 26 | 119 | |

1.3.7 音声言語情報処理研究発表会

| | | | | | |
|-------|-----------------|---------------|----|----|-------------------------|
| 第96回 | 2013年5月23日～24日 | 北陸先端科学技術大学院大学 | 15 | 37 | |
| 第97回 | 2013年7月25日～27日 | 遠刈田温泉 | 13 | 60 | 併催： 電子情報通信学会, 日本音響学会 |
| 第98回 | 2013年10月25日 | 早稲田大学 | 7 | 65 | |
| 第99回 | 2013年12月19日～20日 | 筑波大学 | 23 | 44 | 電子情報通信学会, 日本音響学会 |
| 第100回 | 2014年1月31日～2月1日 | 伊豆長岡村サバレー富士見 | 9 | 88 | |

1.3.8 電子化知的財産・社会基盤研究発表会

| | | | | | |
|------|----------------|---------------|----|----|----------|
| 第60回 | 2013年5月16日 | 情報セキュリティ大学院大学 | 12 | 47 | 電子情報通信学会 |
| 第61回 | 2013年9月11日～13日 | 金沢工業大学 | 36 | 38 | 電子情報通信学会 |
| 第62回 | 2013年11月21日 | 東京工業大学 | 12 | 31 | |
| 第63回 | 2014年2月21日 | 神戸学院大学 | 14 | 22 | |

1.3.9 ゲーム情報学研究発表会

| | | | | | |
|------|------------|---------------|----|----|--|
| 第30回 | 2013年6月28日 | 北陸先端科学技術大学院大学 | 7 | 31 | |
| 第31回 | 2014年3月17日 | 東京工科大学 | 15 | 42 | |

1.3.10 エンタテインメントコンピューティング研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|--------------|----|-----|----------|
| 第28回 | 2013年5月17日～18日 | 大阪大学 | 14 | 87 | 電子情報通信学会 |
| 第29回 | 2013年8月10日 | 筑波大学 | 5 | 22 | |
| 第30回 | 2013年11月23日～24日 | 淡路夢舞台 | 12 | 20 | |
| 第31回 | 2014年3月13日～15日 | 明治大学 中野キャンパス | 80 | 114 | |

1.3.11 バイオ情報学研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|-------------|----|----|----------|
| 第34回 | 2013年6月27日～28日 | 沖縄科学技術大学院大学 | 31 | 30 | 電子情報通信学会 |
| 第35回 | 2013年9月19日～20日 | 北海道大学 | 22 | 12 | |
| 第36回 | 2013年12月11日～12日 | 東京工業大学 | 26 | 33 | |
| 第37回 | 2014年3月4日～5日 | 九州工業大学 | 6 | 9 | |

1.3.12 教育学習支援情報システム研究発表会

| | | | | | |
|------|-----------------|------|----|----|----------|
| 第10回 | 2013年5月24日～25日 | 大阪大学 | 8 | 37 | |
| 第11回 | 2013年12月14日～15日 | 琉球大学 | 31 | 42 | 電子情報通信学会 |
| 第12回 | 2014年1月31日～2月1日 | 明治大学 | 5 | 28 | |

2. シンポジウム等

2.1 調査研究活動分

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 演題数 | 参加数 |
|---|-----------------|-------------------|-----|-----|
| 先進的計算基盤システムシンポジウム (SAGSIS 2013) | 2013年5月22日～24日 | 仙台国際センター | 57 | 176 |
| マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOM2013) シンポジウム | 2013年7月10日～12日 | 十勝川温泉 ホテル大平原 | 314 | 438 |
| 第16回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2013) | 2013年7月29日～8月1日 | 国立情報学研究所 | 256 | 643 |
| 情報教育シンポジウム2013 (SSS2013) | 2013年8月18日～20日 | 休暇村岩手網張温泉 | 37 | 87 |
| DAシンポジウム2013 | 2013年8月21日～22日 | 下呂温泉 水明館 | 30 | 93 |
| ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2013 (SES2013) | 2013年9月9日～11日 | 東洋大学 | 42 | 166 |
| エンタテインメントコンピューティングシンポジウム (EC2013) | 2013年10月4日～6日 | サンポートホール高松 | 80 | 157 |
| 組込みシステムシンポジウム2013 (ESS2013) | 2013年10月16日～18日 | 国立オリンピック記念青少年センター | 39 | 202 |
| コンピュータセキュリティシンポジウム (GSS2013) | 2013年10月21日～23日 | サンポートホール高松 | 140 | 450 |
| 第18回ゲームプログラミングワークショップ2013 | 2013年11月8日～10日 | 箱根セミナーハウス | 32 | 87 |
| 第6回Webとデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum 2013) | 2013年11月27日～28日 | 京都大学 百周年時計台記念館 | 35 | 243 |
| グループウェアとネットワークサービスワークショップ2013 | 2013年11月28日～29日 | 石和温泉華やぎの章慶山 | 15 | 36 |
| コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2013) | 2013年12月4日～5日 | 芝浦工業大学 | 25 | 63 |
| マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPSWS2013) | 2013年12月4日～6日 | ホテル櫻井 | 48 | 90 |
| 情報アクセスシンポジウム (IAS) 2013 | 2013年12月6日 | 国立情報学研究所 | 8 | 40 |
| インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2013) | 2013年12月12日～13日 | 広島大学 | 22 | 112 |
| 人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2013」 | 2013年12月12日～14日 | 京都大学 百周年時計台記念館 | 39 | 88 |
| 災害コミュニケーションシンポジウム | 2013年12月26日 | さくらインターネット 研究所 | 6 | 39 |
| 2014年ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム (HPCS2014) | 2014年1月7日～8日 | 学術総合センター | 37 | 172 |
| ウインターワークショップ2014・イン・大洗 | 2014年1月23日～24日 | 大洗ホテル | 56 | 73 |
| 高度交通システム2014シンポジウム | 2014年1月24日 | 日本青年館ホテル | 7 | 35 |
| インタラクシオン2014 | 2014年2月27日～3月1日 | 日本科学未来館 | 163 | 600 |

2.2 教育活動分

| | | | | |
|------------------------------------|-------------|-------|---|----|
| 高校教科「情報」シンポジウム2013秋 —ジョーシン2013— | 2013年10月26日 | 早稲田大学 | 6 | 87 |
|------------------------------------|-------------|-------|---|----|

※協力：早稲田大学

3. 事業活動

3.1 全国大会

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 一般講演 | 招待講演 | 参加数 |
|----------|----------------|------------------|-------|------|-------|
| 第76回全国大会 | 2014年3月11日～13日 | 東京電機大学 東京千住キャンパス | 1,378 | 4 | 3,030 |

3.2 FIT (情報科学技術フォーラム)

| | | | | | |
|-------------------------|--------------|--------------|-----|---|-------|
| FIT2013 第12回情報科学技術フォーラム | 2013年9月4日～6日 | 鳥取大学 鳥取キャンパス | 660 | 1 | 1,301 |
|-------------------------|--------------|--------------|-----|---|-------|

※共催：電子情報通信学会 (情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ)

3.3 連続セミナー2013：テーマ「ビッグデータの深化と真価～最新技術から活用事例まで～」

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 演題数 | 本会場参加数 | 遠隔会場参加数 |
|-------------------------------|-------------|--|-----|--------|---------|
| ビッグデータ活用のための機械学習技術 | 2013年6月26日 | 各回とも 本会場：化学会館 遠隔会場：立命館大 大阪キャンパス | 5 | 127 | 44 |
| G空間情報処理におけるビッグデータとその応用 | 2013年7月20日 | | 5 | 97 | 32 |
| ビッグデータ時代のセキュリティ | 2013年9月19日 | | 5 | 83 | 21 |
| ライフログとビッグデータ | 2013年10月3日 | | 5 | 81 | 24 |
| 産官学民融合で実現へ！ スマートシティをデザインする | 2013年11月14日 | | 8 | 67 | 18 |
| クラウドソーシングとソーシャルメディア | 2013年12月16日 | | 6 | 69 | 17 |

※協賛：情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、日本情報システム・ユーザー協会、電子情報通信学会

3.4 短期集中セミナー

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 演題数 | 参加数 | 備考 |
|---|-------------|------------|-----|-----|-----|
| Exciting Coding! 2013～ITスペシャリストが語るクラウドシステム／アプリ開発の面白さ～ | 2013年11月29日 | 日立ソリューションズ | 5 | 95 | ※協賛 |

※) The Linux Foundation、日本情報システム・ユーザー協会、情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会

3.4 プログラミング・シンポジウム

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 演題数 | 参加数 |
|----------------------|----------------|----------------------|-----|-----|
| 夏のプログラミング・シンポジウム2013 | 2013年8月25日 | ドリコム プレゼンテーションルーム | 10 | 95 |
| 第46回情報科学若手の会 | 2013年9月14日～16日 | 山喜旅館 | 11 | 47 |
| 第55回プログラミング・シンポジウム | 2014年1月10日～12日 | ラフォーレ倶楽部伊東温泉湯の庭 | 18 | 85 |

3.5 IPSJ International AI Programming Contest

| 名称 | 開催年月 | 場所 | チーム数 | 参加数 | 備考 |
|-----------------------------------|------------|-------------------|------|-----|----|
| Samurai Coding 2013 (Final Round) | 2013年12月8日 | 東京大学本郷キャンパス1-REF棟 | 12 | 40 | ※ |

※) 共催：東京大学情報理工学系研究科
協賛：情報サービス産業協会、日本情報システム・ユーザー協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本ソフトウェア科学会
IEEE-Computer Society、IEEE-Computer Society Japan Chapter、IEEE Japan Office
後援：文部科学省、経済産業省、外務省、情報処理推進機構
将軍スポンサー：匿名の個人の方、プラチナスポンサー：グリー、ゴールドスポンサー：日立製作所、プリファードインフラストラクチャー

4. 技術応用活動

4.1 個別ITフォーラム (7件)

| 名称 | 代表者名 |
|-----------------------------|-------|
| サービスサイエンス | 諏訪良武 |
| ユニバーサルデザイン協創 (旧名称:福祉情報システム) | 菟川友宏 |
| ITダイバーシティ | 位野木万里 |
| 高度IT人材育成 | 掛下哲郎 |
| コンタクトセンター | 宮崎義文 |
| IT未来人材 | 森川博之 |
| ビッグデータ活用実務 | 石井一夫 |

4.2 ITフォーラム関連のイベント

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 演題数 | 参加数 | 備考 |
|--|-----------|----------|-----|-----|------|
| ソフトウェアジャパン2014 「アイドル総選挙からセキュリティまで ～ビッグデータの今」 | 2014年2月4日 | タワーホール船堀 | 4 | 504 | ※1,2 |

※1) 協賛：情報サービス産業協会、日本情報システム・ユーザー協会、電子情報技術産業協会、先端IT活用推進コンソーシアム、電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会、科学技術振興機構、後援：文部科学省、経済産業省、総務省、情報処理推進機構、スポンサー：6団体、サポーター：31団体

※2) 招待講演4件のほか、パネル討論、SJアワードセレモニー、ITフォーラム10件 (他団体連携4件 (個人情報利活用WG・IPA・JISA・AITG))、デモ1件を開催

5. 支部活動（※役員会等は除く）

5.1 北海道支部

- ・情報処理北海道シンポジウム2013（10月5日、室蘭工業大学） 演題数72件、参加者数125名
- ・支部講演会 3回（7月18日、11月28日、'14年3月1日）

5.2 東北支部

- ・電気関係学会東北支部連合大会（8月22-23日、会津大学） 演題数293件、参加者数600名
- ・支部研究会 7回（9月24日、12月2日、12月10日、12月21日、'14年1月31日、2月13日、3月14日）
- ・支部セミナー 2回（10月12-13日、12月25-26日）
- ・支部講演会 2回（10月10日、'14年1月22日）

5.3 東海支部

- ・電気関係学会東海支部連合大会（9月24-25日、静岡大学浜松キャンパス） 演題数629件、参加者数985名
- ・講演会 6回（7月12日、10月11日、10月23日、11月18日、11月18日、'14年3月14日）
- ・研究会 15回（協賛等）

5.4 北陸支部

- ・特別講演会 1回（5月26日）
- ・研究講演会 3回（10月3日、'14年3月8日(2件)）
- ・電気関係学会北陸支部連合大会（9月21-22日、金沢大学角間キャンパス） 演題数312件、参加者数544名
- ・北陸地区学生による研究発表会（'14年3月8日、富山高専）

5.5 関西支部

- ・関西支部支部大会（9月25日、大阪大学中之島センター） 演題数83件、参加者数171名
- ・支部研究会：ものづくり基盤コンピューティングシステム研究会 3回（7月23日、9月25日、'14年3月25日）、社会知能研究会 2回（9月25日、'14年3月13日）、並列分散処理研究会 1回（9月25日）、ネットワークサービス研究会 1回（9月25日）、言語情報分析研究会 1回（9月25日）
- ・支部セミナー 3回（7月28日、8月19・23日、10月26日・11月6日）
- ・講演会 1回（11月21日）
- ・連続セミナー2013（遠隔会場） 6回（6月26日、7月30日、9月19日、10月3日、

5.6 中国支部

- ・電気・情報関連学会中国支部連合大会（10月19日、岡山大学） 演題数 296件、参加者数496名
- ・講演会 9回（5月30日、6月27日(2件)、7月16日、7月23日、9月18日、12月6日、12月18日、'14年2月19日）
- ・講習会 3回（9月25日、10月28日、11月16日）

5.7 四国支部

- ・電気系学会四国支部連合大会（9月21日、徳島大学） 発表者数346名、参加者数493名
- ・共催事業 4回（7月19日、8月20日、10月4-6日、'14年2月27-28日）
- ・講演会 9回（6月14日、6月27日(2件)、10月7日、10月11日、10月18日、11月1日、12月2日、12月20日）

5.8 九州支部

- ・電気関係学会九州支部連合大会（9月24-25日、熊本大学） 講演数554件、聴講者数948名
- ・若手の会セミナー（9月13-14日、かんぼの宿 阿蘇） 参加者数18名
- ・International Workshop on ICT（12月12-14日、別府亀の井ホテル） 発表件数34件、参加者数38名
- ・火の国情報シンポジウム（'14年3月4-5日、大分大学）
- ・講演会等 2回（7月25日、'14年3月16日）

付3. 刊行物（機関誌・図書）一覧

1. 会誌「情報処理」（月刊）

| 発行年月日 | 巻 | 号 | 特集テーマ | その他参考 | | |
|-------------|----|----|---|-------|------|------|
| | | | | 記事数 | 本文頁数 | 広告頁数 |
| 2013年4月15日 | 54 | 5 | DoS攻撃 | 21 | 131 | 6 |
| 2013年5月15日 | 54 | 6 | 実世界に広がる装着型センサを用いた行動センシングとその応用 | 24 | 93 | 4 |
| 2013年6月15日 | 54 | 7 | ノーマリーオフコンピューティング／ネットワークロボット、その人と街とのかかわり | 22 | 123 | 6 |
| 2013年7月15日 | 54 | 8 | 生活をデザインする：生活機能構成学のアプローチ | 38 | 109 | 6 |
| 2013年8月15日 | 54 | 9 | ソフトウェア工学の共通問題／現役プロ棋士に勝ち越したコンピュータ将棋 | 23 | 131 | 6 |
| 2013年9月15日 | 54 | 10 | ユーザスタディのフロンティア | 16 | 99 | 6 |
| 2013年10月15日 | 54 | 11 | プライバシーを守ったITサービスの提供技術 | 18 | 99 | 6 |
| 2013年11月15日 | 54 | 12 | オープンデータ活用 | 17 | 97 | 4 |
| 2013年12月15日 | 55 | 1 | システムとソフトウェアの品質 | 19 | 123 | 6 |
| 2014年1月15日 | 55 | 2 | システム科学・情報学から見たこれからのサービスサイエンス | 15 | 93 | 4 |
| 2014年2月15日 | 55 | 3 | 弁護士から見た情報処理 | 16 | 99 | 6 |
| 2014年3月15日 | 55 | 4 | 情報教育と情報入試 | 54 | 125 | 5 |

2. 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

※オンライン刊行のみ

| 発行年月日 | 巻 | 号 | 特集テーマ | その他参考 | | |
|-------------|----|----|---|-------|-----------|------|
| | | | | 論文数 | テクニカルノート数 | 本文頁数 |
| 2013年4月15日 | 54 | 4 | 音楽情報処理の新展開（音楽情報科学研究会20周年記念特集）／インタラクシヨンの理解および基盤・応用技術 | 49 | 3 | 444 |
| 2013年5月15日 | 54 | 5 | パズルの数理 | 10 | 1 | 52 |
| 2013年6月15日 | 54 | 6 | Applications and the Internet in Conjunction with Main Topics of SAINT 2012 | 21 | 1 | 85 |
| 2013年7月15日 | 54 | 7 | 組込みシステム工学 | 18 | 0 | 165 |
| 2013年8月15日 | 54 | 8 | --- | 14 | 1 | 148 |
| 2013年9月15日 | 54 | 9 | 未来を切り開くコンピュータセキュリティ技術 | 22 | 0 | 152 |
| 2013年10月15日 | 54 | 10 | --- | 7 | 0 | 56 |
| 2013年11月15日 | 54 | 11 | --- | 5 | 1 | 58 |
| 2013年12月15日 | 54 | 12 | --- | 15 | 2 | 126 |
| 2014年1月15日 | 55 | 1 | 教育とコンピュータ／社会活動に協調する技術とネットワークサービス／社会と共に絆を支える高度交通システムとモバイル通信 | 51 | 2 | 573 |
| 2014年2月15日 | 55 | 2 | ネットワークサービスと分散処理／ソフトウェア工学／組込みシステム工学 | 56 | 1 | 542 |
| 2014年3月15日 | 55 | 3 | オーバーレイを考慮したインターネットと運用技術 | 14 | 1 | 120 |

3. 「Journal of Information Processing (JIP)」 (季刊)

※オンライン刊行のみ

| 発行年 | 巻 | 号 | 備考 | その他参考 | | |
|-------------|----|---|----|-------|--------|------|
| | | | | 論文数 | 付加ノート数 | 本文頁数 |
| 2013年4月15日 | 21 | 2 | | 21 | 2 | 211 |
| 2013年7月15日 | 21 | 3 | | 23 | 1 | 221 |
| 2013年10月15日 | 21 | 4 | | 11 | 0 | 93 |
| 2014年1月15日 | 22 | 1 | | 8 | 1 | 95 |

4. 「情報処理学会論文誌 (トランザクション)」 (不定期、8誌)

※オンライン刊行のみ

| 発行年月日 | 巻 | 号 | トランザクション名 | その他参考 | |
|-------------|---|---|----------------------------------|-------|------|
| | | | | 論文数 | 本文頁数 |
| 2013年8月29日 | 6 | 2 | プログラミング | 7 | 107 |
| 2013年12月20日 | 6 | 3 | プログラミング | 3 | 52 |
| 2013年12月25日 | 6 | 4 | プログラミング | 6 | 81 |
| 2014年1月22日 | 7 | 1 | プログラミング | 3 | 33 |
| 2013年8月21日 | 6 | 2 | 数理モデル化と応用 | 17 | 181 |
| 2013年12月27日 | 6 | 3 | 数理モデル化と応用 | 15 | 162 |
| 2014年3月28日 | 7 | 1 | 数理モデル化と応用 | 10 | 105 |
| 2013年6月28日 | 6 | 3 | データベース | 15 | 196 |
| 2013年9月27日 | 6 | 4 | データベース | 9 | 112 |
| 2013年12月27日 | 6 | 5 | データベース | 9 | 106 |
| 2014年3月28日 | 7 | 1 | データベース | 1 | 17 |
| 2013年4月19日 | 6 | 2 | コンピューティングシステム | 1 | 10 |
| 2013年9月25日 | 6 | 3 | コンピューティングシステム | 12 | 145 |
| 2013年10月30日 | 6 | 4 | コンピューティングシステム | 10 | 116 |
| 2014年3月25日 | 7 | 1 | コンピューティングシステム | 6 | 72 |
| 2013年7月31日 | 3 | 3 | コンシューマ・デバイス&システム | 10 | 93 |
| 2013年12月25日 | 3 | 4 | コンシューマ・デバイス&システム | 3 | 32 |
| 2013年8月26日 | 1 | 1 | デジタルコンテンツ | 5 | 44 |
| 2014年2月21日 | 2 | 1 | デジタルコンテンツ | 3 | 23 |
| 2013年5月28日 | 6 | - | Bioinformatics | 1 | 9 |
| 2013年6月24日 | 6 | - | Bioinformatics | 1 | 11 |
| 2013年7月10日 | 6 | - | Bioinformatics | 2 | 14 |
| 2014年1月17日 | 7 | - | Bioinformatics | 1 | 14 |
| 2013年8月5日 | 6 | - | System LSI Design Methodology | 7 | 70 |
| 2014年2月14日 | 7 | - | System LSI Design Methodology | 5 | 54 |
| 2013年4月11日 | 5 | - | Computer Vision and Applications | 1 | 11 |
| 2013年7月29日 | 5 | - | Computer Vision and Applications | 21 | 104 |
| 2013年8月23日 | 5 | - | Computer Vision and Applications | 3 | 29 |
| 2013年10月18日 | 5 | - | Computer Vision and Applications | 2 | 20 |
| 2014年2月17日 | 6 | - | Computer Vision and Applications | 1 | 11 |
| 2014年3月24日 | 6 | - | Computer Vision and Applications | 1 | 13 |

5. 「情報処理学会デジタルプラクティス」 (年4回)

| 発行年月日 | 巻 | 号 | 特集テーマ | その他参考 | |
|-------------|---|---|--|-------|------|
| | | | | 論文数 | 本文頁数 |
| 2013年4月15日 | 4 | 2 | 要求工学で情報システム開発を変える：ユーザとベンダのWin-Win Wayへ | 9 | 108 |
| 2013年7月15日 | 4 | 3 | ヘルスケアの現場を支えるIT | 12 | 110 |
| 2013年10月15日 | 4 | 4 | 利用されるクラウドコンピューティング | 8 | 82 |
| 2014年1月15日 | 5 | 1 | 経営に貢献するコンタクトセンタ | 7 | 90 |

6. その他出版（重版）

※いずれも、判型：A5、委託出版社名：オーム社

| 発行年月 | 書籍名 | 発行部数 | 本文頁数 |
|------------|------------------------------------|-------|------|
| 2013年5月20日 | IT textシリーズ 組込みシステム 1版3刷 | 300 | 266 |
| 2013年7月5日 | IT textシリーズ アルゴリズム論 1版12刷 | 1,300 | 230 |
| 2013年8月20日 | IT textシリーズ（一般教育） 情報とネットワーク社会 1版2刷 | 800 | 192 |
| 2013年9月20日 | IT textシリーズ 応用Web技術 1版7刷 | 152 | 200 |
| 2013年9月20日 | IT textシリーズ プログラム仕様記述論 1版7刷 | 90 | 192 |
| 2013年9月20日 | IT textシリーズ 情報リテラシー 1版8刷 | 103 | 248 |
| 2014年1月25日 | IT textシリーズ オペレーティングシステム 1版17刷 | 1,000 | 230 |
| 2014年1月25日 | IT textシリーズ データベース 1版13刷 | 800 | 196 |
| 2014年1月25日 | IT Textシリーズ（一般教育） 情報システム基礎 1版7刷 | 800 | 218 |
| 2014年2月5日 | IT textシリーズ ソフトウェア開発 1版14刷 | 800 | 212 |
| 2014年2月5日 | IT textシリーズ 基礎Web技術 1版11刷 | 600 | 188 |
| 2014年3月5日 | IT textシリーズ Linux演習 1版6刷 | 300 | 210 |

付4. 国際会議一覧

※以下は、2013年度内に終了報告が完了した国際会議

| 名称 | 開催年月 | 場所 | 参加数 | 内 海外参加 | 海外 共催団体 |
|--|------------------|----------------|--------|-----------|-------------|
| 2nd Asian Conference on Pattern Language of Programs (AsianPLOP 2011) | 2011年10月5日-10月8日 | 日本（東京） | 43名 | 9名 | --- |
| The 6th International Conference on Mobile Networking Computing and Ubiquitous (ICMU2012) | 2012年5月23日～5月24日 | 日本（沖縄） | 46名 | 1名 | --- |
| The 2012 International Symposium on Applications and the Internet (SAINT2012) | 2012年7月16日～20日 | トルコ (イズミール) | 114名 | 24名 | IEEE |
| The seventh International Workshop on Security (IWSEC2012) | 2012年11月7-9日 | 日本（福岡） | 117名 | 23名 | --- |
| The 21st International Conference on Pattern Recognition (ICPR2012) | 2012年11月11-15日 | 日本（茨城） | 1,209名 | 902名 | --- |
| Asia and South Pacific Design Automation Conference 2013 (ASP-DAC 2013) | 2013年1月22日-25日 | 日本（横浜） | 462名 | 175名 | IEEE ACM |

付5. 表彰等 *いずれも所属（ ）内は選定当時、掲載は順不同、敬称略

1. 新名誉会員（3名） [2014年度定時総会（2014年6月）表彰] [理事会（2014年1月）]

・水野忠則（愛知工大） ・旭 寛治（日立） ・松田晃一（IPA）

2. 功績賞（3名） [2014年度定時総会（2014年6月）表彰] [功績賞選定委員会（2014年3月）]

・寺中勝美（NTTソフト） ・辻井潤一（Microsoft Research Asia） ・古川一夫（NEDO）

3. 新フェロー（13名） [2014年度定時総会（2014年6月）表彰] [フェロー選定委員会（2014年2月）]

・今井正治（阪大） 「電子システムの設計自動化技術の研究および国際標準化に対する貢献」
 ・関口智嗣（産総研） 「科学技術計算用グリッドコンピューティングミドルウェアの研究開発」
 ・竹内郁雄（早大） 「プログラミング言語の研究および若手育成への貢献」
 ・竹林洋一（静岡大） 「人間中心のマルチモーダルインタラクション研究の発展に対する貢献」
 ・中川正樹（東京農工大） 「ペンとタブレットによるユーザインタフェースの研究と開発」
 ・中嶋正之（Uppsala Univ.） 「画像処理、コンピュータグラフィックスの黎明期から40年にわたっての研究・普及・教育に対する貢献」
 ・藤田 聡（広島大） 「並列・分散システム基盤を対象としたアルゴリズム研究に対する貢献」
 ・藤村直美（九大） 「大学における情報系センター交流活動への貢献と情報教育環境整備に関する先進的な取り組み」
 ・松山泰男（早大） 「尤度を用いた機械学習アルゴリズムの開発とその応用に対する貢献」
 ・丸山 宏（統計数理研） 「非構造情報・半構造情報の分析、サービス利用、およびセキュリティの実用化に対する貢献」
 ・山室雅司（NTTソフト） 「データベースに関する研究開発、および学会運営への貢献」
 ・吉野松樹（日立） 「開発支援環境、システム運用管理などの先端ミドルウェアの開発、および学会運営への貢献」
 ・渡辺 尚（阪大） 「無線ネットワーク基礎技術の研究開発に対する貢献」

4. 論文賞（9件32名） [2014年度定時総会（2014年6月）表彰] [論文賞選定委員会（2014年2月）]

(1) 情報処理学会論文賞

・Chord#における経路表の維持管理コスト削減手法の提案とその評価 吳承彦、安倍広多、石橋勇人、松浦敏雄（大阪市立大）
 ・任意形状の堆積形成手法 櫻井快勢、宮田一乗（北陸先端大）
 ・大規模ソフトウェア保守のための影響波及量尺度インパクトスケール
 小林健一、松尾昭彦（富士通研）、井上克郎（阪大）、早瀬康裕（筑波大）、上村 学（富士通研）、吉野利明（富士通）
 ・コンピュータ将棋を用いた棋譜の自動解説と評価 金子知通（東大）
 ・人間とデバイスの感度の違いを利用したディスプレイ盗撮防止方式
 山田隆行（NII）、合志清一（工学院大）、越前 功（NII/総合研究大学院大）

(2) Journal of Information Processing Outstanding Paper Award

・Finding a Hamiltonian Path in a Cube with Specified Turns is Hard
 Zachary Abel, Erik D. Demaine, Martin L. Demaine, Sarah Eisenstat, Jayson Lynch, Tao B. Schardl (MIT)

(3) 情報処理学会論文誌 コンシューマ・デバイス&システム 優秀論文賞

・世界最大級のモバイルISPシステムを実現したOMGSの超並列システムモデル
 相澤正俊（国際社会経済研）、東 健二、大藤豊喜、川浦立志（NEC）

(4) IPSJ Transactions on Bioinformatics Outstanding Paper Award

・A Method for Isoform Prediction from RNA-Seq Data by Iterative Mapping
 Tomoshige Ohno, Shigeto Seno, Yoichi Takenaka, Hideo Matsuda (Osaka Univ.)

(5) IPSJ Transactions on System LSI Design Methodology Outstanding Paper Award

・A Robust Algorithm for Pessimistic Analysis of Logic Masking Effects in Combinational Circuits
 Taiga Takata, Yusuke Matsunaga (Kyushu Univ.)

5. 喜安記念業績賞 (3件11名、* : 代表貢献者) [2014年度定時総会 (2014年6月) 表彰] [喜安記念業績賞選定委員会 (2014年2月)]

- ・「IT漁業の推進および海洋環境と水産資源の可視化による水産業への貢献」
*和田雅昭、岡本 誠 (はこだて未来大)、畑中勝守 (東京農業大)、佐野 稔 (稚内水産試験場)
- ・「サイドチャンネル攻撃対策技術の開発と実用化」
*鳥居直哉、伊藤孝一、武仲正彦 (富士通研)、伊豆哲也 (FUJITSU Lab. Europe)、高崎裕美子 (富士通セミコンダクター)
- ・「スマートフォン向けアプリケーションにおけるプライバシー保護の取り組み」 *竹森敬祐、川端秀明、磯原隆将 (KDDI研)

6. 長尾真記念特別賞 (3名) [2014年度定時総会 (2014年6月) 表彰] [長尾真記念特別賞選定委員会 (2014年2月)]

- ・岩田具治 (NTT) 「確率的潜在変数モデルに基づくデータマイニングに関する研究」
- ・寺田 努 (神戸大) 「ウェアラブルコンピューティング技術に基づく実世界指向エンタテインメントシステムの研究」
- ・宮尾祐介 (NII) 「自然言語の深い構文・意味解析の研究とその応用」

7. 山下記念研究賞 (52編) [第76回全国大会 (2014年3月) 表彰] [各領域委員会 (2013年6, 7月)]

<コンピュータサイエンス領域>

- ・個々のノードの視点に基づく機能コミュニティ抽出法 [データベースシステム] 伏見卓恭 (静岡県立大)
- ・アウトオブオーダー型データベースエンジンOoODEの試作とその実行挙動 [データベースシステム] 合田和生 (東大)
- ・UNICOEN: 複数プログラミング言語対応のソースコード処理フレームワーク [ソフトウェア工学] 坂本一憲 (NII)
- ・業務観点でのレビューを目指した不具合情報の分析 [ソフトウェア工学] 森崎修司 (静岡大)
- ・コア数と動作周波数の動的変更によるメモリアーキテクチャの提案 [計算機アーキテクチャ] 今村智史 (九大)
- ・Tightly Coupled Acceleratorsアーキテクチャ向け通信機構の予備評価 [計算機アーキテクチャ] 塙 敏博 (筑波大)
- ・準仮想化ページフォルトを用いたポストコピー型ライブマイグレーションの性能向上手法 [システムソフトウェアとオペレーティング・システム] 広瀨崇宏 (産総研)
- ・動的複数電源電圧およびフロアプラン統合化アーキテクチャを対象とした低電力化高位合成手法 [システムLSI設計技術] 阿部晋矢 (早大)
- ・Routability-oriented Common-Centroid Capacitor Array Generation [システムLSI設計技術] 中武繁寿 (北九大)
- ・「京」のための MPI 通信機構の設計 [ハイパフォーマンスコンピューティング] 住元真司 (富士通)
- ・Tofuネットワークにおけるプロセス配置形状による集団通信アルゴリズムの性能解析 [ハイパフォーマンスコンピューティング] 南里豪志 (九大)
- ・解析表現文法とSchemeマクロ展開器を用いたJavaScript向けHygienic構文マクロシステムの実装 [プログラミング] 浦水佳奈子 (三菱電機)
- ・無理数遷移確率ランダムウォークの脱乱択化 [アルゴリズム] 白髪丈晴 (九大)
- ・混合正規分布モデルを用いた経時観測蛍光画像からの細胞核の検出と追跡手法 [数理モデル化と問題解決] 瀬尾茂人 (阪大)
- ・GPU制御用ファームウェア開発環境 [組込みシステム] 藤居祐輔 (立命館大)

<情報環境領域>

- ・秘密分散法に基づくセキュア無線通信リンクの形成 —狭ビーム形成の効果とその弊害— [マルチメディア通信と分散処理] 山中仁昭 (広島国際大)
- ・密な基地局群の無線相互干渉調停のための空間分割スケジューリング技術 [マルチメディア通信と分散処理] 山口弘純 (阪大)
- ・SpecificFont: 受け手の状況を考慮したメッセージの提示を実現するためのフォントの提案 [ヒューマンコンピュータインタラクション] 野間田佑也 (多摩美大)
- ・アクティブ音響センシングを用いた把持状態認識 [ヒューマンコンピュータインタラクション] 大野 誠 (筑波大)
- ・例示ベースの弾性変形の実時間計算手法 [グラフィクスとCAD] 小山裕己 (東大)
- ・ポリウムレンダリングにおける伝達関数の推定法 [グラフィクスとCAD] 渋谷雄平 (北大)
- ・エージェント技法を用いた津波避難評価システムの構築と社会実装 [情報システムと社会環境] 中居楓子 (京大)
- ・TwitterとBlogの共通ユーザプロフィールを利用したTwitterユーザ属性推定 [情報基礎とアクセス技術] 伊藤 淳 (NTT)
- ・未来の在室情報を予報する在室管理システム「Docoitter」の開発 [グループウェアとネットワークサービス] 田中優斗 (和歌山大)

- ・ゲーミフィケーションを活用した自発的行動支援プラットフォームの試作と実践 [グループウェアとネットワークサービス] 根本啓一 (富士ゼロックス)
- ・東日本大震災にともなう歴史資料保全の取り組み [デジタルドキュメント] 天野真志 (東北大)
- ・グリッドグラフを利用した位置推定手法 [モバイルコンピューティングとユビキタス通信] 久保 健 (KDDI)
- ・重畳符号化を用いた無線通信における転送量に基づく電力割当方式の設計と評価 [モバイルコンピューティングとユビキタス通信] 青木勇太 (富士通)
- ・テナント伝搬に基づく解析対象コードの追跡方法 [コンピュータセキュリティ] 川古谷裕平 (NTT)
- ・秘匿計算上の集約関数中央値計算アルゴリズム [コンピュータセキュリティ] 濱田浩気 (NTT)
- ・ビッグデータ分析を活用した電気自動車充電ステーション推奨技術の研究 [高度交通システム] 川野晋一郎 (東芝ソリューション)
- ・分散データストアシステムに対するEnergyCapping制御 [システム評価] 菅 真樹 (NEC)
- ・Control Manually: 視聴者協力型ライブ演出システムによるコミュニケーションと演出効果の拡張 [ユビキタスコンピューティングシステム] 米澤拓郎 (慶大)
- ・GPUクロック制御によるサーバのピークエネルギー消費削減の試み [インターネットと運用技術] 石島 梯 (産技研)
- ・一般カードを用いた認証システムにおけるハッシュ関数を用いたPINコード生成方式 [インターネットと運用技術] 清水さや子 (東京海洋大)
- ・ネットショッピング・オークション利用に際する不安調査結果に対する一考察 [セキュリティ心理学とトラスト] 山本太郎 (NTT)
- ・ホームネットワークマップ特定プロトコルHTIPの設計と診断ツールへの適用 [コンシューマデバイス&システム] 美原義行 (NTT西日本)

<メディア知能情報領域>

- ・Split Head Automataによる依存構造解析 [自然言語処理] 林 克彦 (NTT CS研)
- ・Binary code-based Human Detection [コンピュータビジョンとイメージメディア] 山内悠嗣 (中部大)
- ・フレーム間の連続性を保持する動画編集法 [コンピュータビジョンとイメージメディア] 谷田川達也 (東大)
- ・プログラミング初学者の段階的な理解モデルの検討とツールによる支援 [コンピュータと教育] 保福やよい (相模向陽館高)
- ・ビジュアル型言語とテキスト記述型言語の併用によるプログラミング入門教育の試みと成果 [コンピュータと教育] 松澤芳昭 (静岡大)
- ・古代エジプト神官文字写本を対象とした言語情報表示システムの試作 [人文科学とコンピュータ] 永井正勝 (筑波大)
- ・関連史料収集のための手法に関する考察 -日本の南北朝期における史料を対象に- [人文科学とコンピュータ] 山田太造 (東大)
- ・ピアノ演奏補助情報からの独立を促す学習支援システムの構築 [音楽情報科学] 竹川佳成 (はこだて未来大)
- ・音声データの隠れ属性を利用した異種音響モデル群の構築 [音声言語情報処理] 福田 隆 (日本IBM)
- ・ソーシャルメディア利用における亡くなったユーザ情報の扱いに関する一考察 [電子化知的財産・社会基盤] 折田明子 (関東学院大)
- ・大規模な対局に基づいた教師データの重要度の学習 [ゲーム情報学] 佐藤佳州 (筑波大)
- ・起立-着席訓練のためのリハビリテーション用シリアスゲームの介護老人保健施設への導入 [エンタテインメントコンピューティング] 松隈浩之 (九大)
- ・鍵盤上への演奏補助情報投影機能をもつピアノ学習支援システムにおける熟達化プロセスの調査 [エンタテインメントコンピューティング] 竹川佳成 (はこだて未来大)
- ・Predicting Protein-RNA Residue-base Contacts Using Two-dimensional Conditional Random Field [バイオ情報学] 林田守広 (京大)
- ・LMSとの連携を実現するためのLTI準拠学習支援ツールの実装例と実装方法 [教育学習支援情報システム] 村上幸生 (熊本大)

8. 大会優秀賞・大会奨励賞 [第76回全国大会 (2014年3月) 表彰] [第75回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞選定委員会]

(1) 大会優秀賞 (6名)

- ・出原章雄 (三菱電機)
- ・神崎映光 (阪大)
- ・萩谷俊幸 (KDDI研)
- ・藤原靖宏 (NTT)
- ・水野貴之 (筑波大)
- ・村上岳生 (富士通研)

(2) 大会奨励賞 (11名)

- ・石井大祐 (早大)
- ・岩月 厚 (名大)
- ・太田麗二郎 (法政大学)
- ・小栗寛生 (東工大)
- ・酒井修二 (東北大)
- ・佐々木将人 (早大)
- ・高見 愛 (三菱電機)
- ・深尾和寿 (立命館大)
- ・望月敬太 (京大)
- ・山口雄紀 (京大)
- ・渡邊奈津美 (中央大)

9. 教育賞

[2014年度定時総会（2014年6月）表彰] [情報処理教育委員会（2014年3月）]

(1) 優秀教材賞（1件）

- ・渡辺大地（東京工科大） 「学生による自主的なゲーム制作を促進する3D プログラミングフレームワーク」

10. 若手奨励賞（16件）

[当該コンテストにて表彰] [若手奨励賞選定委員会（2013年4月～2014年3月）]

<第19回スーパーコンピューティングコンテスト（2013年8月）>

- ・麻布高校チーム “YOSUBATO” 森田晃平、吉村 允（麻布高）

<第24回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2013年10月）課題部門>

- ・東京工業高専チーム “縁-ゆかりのある子育て-” 木暮健悟、五味京祐、松尾祐佳、松林 圭、大林直樹（東京工業高専）

<第24回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2013年10月）自由部門>

- ・鳥羽商船高専チーム “すなケッチ！” 栗原亨穂、稲田 樹、伊藤由祐紀、萩原海仁、田川瑞季（鳥羽商船高専）

<第24回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2013年10月）競技部門>

- ・鈴鹿工業高専チーム “君に届けこの想い-想いを伝える魔法のサイコロ-” 松田 薫、石河純輝、武田源生（鈴鹿工業高専）

<ETロボコン2013 プログラミング部門（2013年11月）>

- ・「Joker良」 ディブタラマ、佐藤彰洋、石黒裕也、柏葉祐輝、轟 奨太、戸沼 諒、篠原 歩、成澤和志（東北大）

<パソコン甲子園2013 プログラミング部門（2013年11月）>

- ・「人間の鑑s」 劉 鴻志、森 大希（栄光学園高）
- ・「-25.00pts」 熊崎剛生、隈部 壮（筑波大学附属駒場高）
- ・「gomisaw」 重村卓人、三谷 庸（灘高）

<パソコン甲子園2013 モバイル部門（2013年11月）>

- ・「ゆでたまご」 矢倉章恵、中野友貴、中村惇希（鳥羽商船高専）
- ・「となコウZ」 小西祥太、有野 元、藤永明香里（富山県立砺波工業高）

<第13回日本情報オリンピック（2014年3月）>

- ・井上卓哉（開成中） ・佐藤竜馬（茨木高） ・隈部 壮（筑波大学附属駒場高）
- ・伊佐碩恭（開成中） ・高谷悠太（開成中） ・岩井龍之介（灘高）

11. 学会活動貢献賞／感謝状

[2014年度定時総会（2014年6月）表彰] [総務財務運営委員会（2014年1月）]

(1) 学会活動貢献賞：「学会誌における編集業務への貢献」（1名）

- ・高岡詠子（上智大）

(2) 学会活動貢献賞：「論文誌への査読貢献」（3名）

- ・菅沼拓夫（東北大） ・佐々木良一（東京電機大） ・樋地正浩（日立東日本ソリューションズ）

(3) 学会活動貢献賞：「デジタルプラクティスへの査読貢献」（1名）

- ・住田一男（東芝リサーチ・コンサルティング）

12. 支部関係

[各支部総会・支部連合大会等にて表彰] [各支部]

<北海道>

- (1) 研究奨励賞（5名） ・兼古哲也 ・斎藤健太郎 ・中村将成 ・本庄将也 ・松田隼士
- (2) 学術研究賞（1件） ・利根川凜、山本雅人、古川正志
- (3) 技術研究賞（2件） ・榊井文人、上野裕暉、柳 等
- ・川村真人、高井昌彰
- (4) ポスター賞（4名） ・小川 純 ・小原拓也 ・平間大貴 ・三好竜志
- (5) 工業高専奨励賞（3名） ・古館裕大 ・矢野裕史 ・森下真孝

<東北>

- (1) 学生奨励賞 (2) 支部奨励賞 (3) 野口研究奨励賞

<東海>

- (1) 電気関係学会東海支部連合大会奨励賞 (8名)

・ウキエツ ・細野友章 ・渡邊 岳 ・伊藤達也 ・牧原義人 ・早川顕太 ・太田雄大 ・稲木 大

- (2) 支部学生論文奨励賞 (8名)

・江藤正通 ・奥村健太 ・掛井将平 ・胡 艶楠 ・斎藤正孝 ・成田 了 ・納堂博史 ・原 圭佑

<北陸>

- (1) 優秀論文発表賞 (4名)

・中田明秀 ・山北将平 ・吉田哲平 ・藤田翔也

- (2) 優秀学生表彰 (12名)

・前川翔汰 ・中村綾佑 ・石田雄登 ・林賢太郎 ・神林卓也 ・多田 徹
・福田裕一 ・屋敷健太 ・橋本瑞樹 ・高橋宏幸 ・板屋佳汰 ・中山雄大

<関西>

- (1) 学生奨励賞 (6名)

・Minseon Lee ・津崎善晴 ・丹羽 徹 ・樋口雄大 ・大野一樹 ・雪本英輝

<中国>

- (1) 支部優秀論文発表賞 (5名)

・岡部裕介 ・芦塚正雄 ・島田 英之 ・Shahidatul Sadiah ・岡田 雄揮

- (2) 支部奨励賞 (11名)

・塔 娜 ・松尾雄二 ・品川和哉 ・松本 凌 ・荻野真奈美 ・泉倉大地
・諏訪下敦規 ・鍋田敬寛 ・瀬藤 諒 ・竹腰祐輝 ・小田敬子

<四国>

- (1) 学生奨励賞 (2) 四国支部奨励賞

<九州>

支部奨励賞-連合大会

・丸田 要 ・須崎 陽 ・中島淳平 ・岩永章吾 ・山内一将

支部奨励賞-火の国シンポ

・門口 礼 ・田原卓弥 ・中原啓貴 ・中原史博 ・松川理拓

支部奨励賞-若手の会

・江川瀬里奈

13. 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館

[第76回全国大会 (2014年3月) 認定] [歴史特別委員会]

- (1) 情報処理技術遺産 (8件) ※ () 内は製造者、製造年

・ページ式和欧文電信機「55型テレタイプ」(沖電気、1953年)
・パラメトロンアーカイブス(和田英一 他、1958年より)
・TACウイリアムス管・真空管および関連資料(東京大学、1959年)
・KT-Pilot(京都大学・東京芝浦電気、1961年)
・強震応答解析用アナログ計算機SERAC(日立製作所、1961年)
・DIPS-1構成部品(中央処理装置等)(日本電信電話公社、1971年)
・京都大学QA-1(京都大学工学部、1977年)
・ベーシックマスター MB-6880(日立製作所、1978年)

- (2) 分散コンピュータ博物館 (1件)

・神戸大学経済経営研究所経営機械化展示室

14. デジタルプラクティスアワード (1件1名)

[ソフトウェアジャパン2014 (2014年2月) 表彰] [デジタルプラクティス編集委員会]

・地域医療連携ネットワークの構築と運用継続性の追求—長崎: あじさいネットを事例とした社会基盤サービスの構築—

石黒満久 (NTTデータ)

15. ソフトウェアジャパンアワード (2名)

[ソフトウェアジャパン2014 (2014年2月) 表彰]

・住井英二郎 (東北大)

「先進的プログラミング言語理論に関する世界トップレベルの研究・開発」

・登 大遊 (ソフトイーサ)

「仮想プライベートネットワークソフトウェアをいち早く開発」

- (1) FIT2013 船井業績賞 (1名) ※船井情報科学振興財団主催
・まつもと ゆきひろ (Rubyアソシエーション)
- (2) FIT2013 船井ベストペーパー賞 (3件) ※船井情報科学振興財団主催
・知名度の地理的広がりを考慮した実世界スポットの地域局所性推定 田中陽子、数原良彦、佐藤吉秀、戸田浩之、鷺崎誠司 (NTT)
・奏者の意図したテンポ変動の推定に基づく演奏録音の自動伸縮修正法 小泉悠馬、伊藤克亘 (法政大)
・回転運動する聴覚刺激が回転ベクション感覚に及ぼす影響
崔 正烈、柳生寛幸、坂本修一 (東北大)、岩谷幸雄 (東北学院大)、鈴木陽一 (東北大)
- (3) FIT2013 論文賞 (2件)
・HPCクラウドにおける仮想計算機の割込み通知機構の改良 本庄賢光 (広島市立大/IIJ)、窪田昌史、北村俊明 (広島市立大)
・地域制約の元での戦略的操作不可能なマッチングメカニズム
橋本直幸、上田 俊、岩崎 敦 (九大)、安田洋祐 (政策研究大学院大)、横尾 真 (九大)
- (4) FIT2013 ヤングリサーチャー賞 (10名) ※FIT2014 (2014年9月) 表彰
・小甲啓隆 (奈良先端大) ・河村 圭 (KDDI研) ・三功浩嗣 (KDDI研) ・橋本直幸 (九大)
・平田展裕 (山口大) ・村田晴美 (中京大) ・望月理香 (NTT) ・山室綾乃 (青山学院大)
・横山法子 (NTT) ・若色 匠 (工学院大)

17. 情報規格調査会関連の表彰

- (1) 標準化功績賞 (3名) [情報規格調査会総会 (2013年5月) 表彰] [情報規格調査会]
・岡本敏雄 (電気通信大) ・小野文孝 (東京工芸大) ・高橋宗雄 (桐蔭横浜大)
- (2) 標準化貢献賞 (10名) [情報規格調査会総会 (2013年5月) 表彰] [情報規格調査会]
・池田宏明 (千葉大) ・甲斐成樹 (IPA) ・上村郁應 (NTTインテリジェント企画開発)
・関口俊一 (三菱電機) ・則松武志 (フラウンホーファー IIS) ・福田充昭 (富士通研)
・福地 豊 (日立) ・松尾賢治 (KDDI研) ・宮崎比呂志 (富士通) ・山下 真 (富士通)
- (3) 国際規格開発賞 (21名: 19件) [情報規格調査会 技術委員会 表彰] [情報規格調査会]
・緒方日佐男 (日立オムロンTS) ・梶野智行 ・加藤重信 ・岸知二 (早大)
・坂無英徳 (産総研) ・佐古和恵 (NEC・2件) ・佐野雅規 (NHK) ・芝野耕司 (東京外語大)
・新谷勝利 (IPA) ・鈴木俊宏 (日本オラクル) ・高橋光裕 (IPA) ・浜壮一 (富士通研)
・原 潤一 (リコー) ・原田 敬 (IPA) ・平林光浩 (ソニー) ・福地 豊 (日立)
・福原隆浩 (ソニー) ・松尾真一郎 (NICT) ・向山 博 (IPA) ・山田昭雄 (NEC)
・山田 淳 (東芝)
- (4) 工業標準化事業功労者表彰 [工業標準化表彰式 (2013年10月) 表彰] [経済産業省]
・工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰: 竜田敏雄 (情報セキュリティ大学院大)
・国際標準化貢献者表彰 (産業技術環境局長表彰): 武部達明 (横河電機)
・国際標準化貢献者表彰 (産業技術環境局長表彰): 野村茂豊 (日立)
・国際標準化貢献者表彰 (産業技術環境局長表彰): 室中健司 (富士通)
・国際標準化奨励者表彰 (産業技術環境局長表彰): 吉田博隆 (日立)

その他および附属明細書（法定記載事項）

1. その他、内部統制の整備についての決議に該当はありません。
2. その他、事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上